

財団  
法人

# 東洋文庫年報

平成 6 年度

財団法人 東洋文庫

## 目次

I 図書事業	1
1. 資料の収集	1
2. 資料の整理	3
3. 資料利用と複写サービス	4
4. 資料の保存整理と複製	8
5. 業務の機械化	9
6. 書庫内資料と書架スペース	10
7. メディア変換	11
II 研究事業	12
1. 調査研究	12
i 文部省科学研究費による調査研究	12
ii 一般調査研究	17
iii 特別調査研究	20
iv その他の研究助成金による事業	22
v 研究委員会	29
2. 学術図書出版	30
3. 講演会	31
4. 研究会（東洋文庫談話会）	33
5. 研究者養成	33
6. 学術情報提供	33
i 研究者の交流および便宜供与のサービス	33
ii 研究会等への会場提供サービス	39
iii 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	39
iv 参考情報提供サービス	39
7. 職員の研究業績	40



III 業 務 報 告	85
1. 総務報告	85
2. 人事報告	86
IV 役 職 員 名 簿	88
1. 役 員	88
2. 東洋学連絡委員会委員	90
3. 名誉研究員	90
4. 職 員	91
5. 臨時職員	95
V 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	96
1. ユネスコ協力活動	96
2. 学術情報活動	96
3. 重要文献の保存・普及活動	103
4. 研究普及活動	104
5. 業務報告	106
6. 役職員名簿	109

## 付 表

「東洋文庫チベット人招聘研究者一覧」	57～66
「東洋文庫国内研究者等受入略表」	67～72
「東洋文庫奨励研究員略表」	73～81
「日本学術振興会奨励研究員・特別研究員受入略表」	82～84

# I 図 書 事 業

## 1. 資 料 の 収 集

### (1) 資 料 購 入

資料購入費の支出総額は19,182,952円で、各部門別の内訳は以下の通りである。

	和 漢 書	洋 書	計	マイクロ・フィッシュ	マイクロ・フィルム
一 般 文 献 資 料	159冊	103冊	262冊	0枚	0リール
中央アジア特別研究資料	88	553	641	0	29
東アジア特別研究資料	1,486	56	1,542	0	0
西アジア特別研究資料	0	1,578	1,578	0	0
東南アジア特別研究資料	51	41	92	0	0
チベット特別研究資料	7	148	155	2,610	0
近代中国特別研究資料	863	87	950	0	0
計	2,654	2,566	5,220	2,610	29

おもな購入資料としては、以下のものがある。

- 新編中華人民共和国地方志叢書 240冊
- 明清檔案 第9輯 29冊
- 宮中檔乾隆朝奏摺 20冊
- 大藏經索引 欠号補充 30冊
- Census of India 21冊
- Satapitaka Series
- (URGA KANJUR, Tibetan—Sanskrit Dictionary など) 49冊
- 19c 末～20c 初頭刊行の Bayan ul-Hag, Aciq Söz,  
Ayna 他中央アジアの新聞 29リール
- Series Islamic Geography 76冊
- Rijks Geschiedkundige Publicatiën Grote Serie 15冊

## (2) 資 料 交 換

出版物交換の実績は以下の通りである。

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	996冊	467冊	1,463冊	2,850冊	1,766冊	4,616冊
定期刊行物	6,644	1,715	8,359	2,466	1,853	4,319
計	7,640	2,182	9,822	5,316	3,619	8,935

受贈資料の主なものとしては次のものがある。

○韓国民族文化大百科辞典（韓国精神文化研究院寄贈） 27冊

資料室では交換先機関との協力関係をより緊密にするために、文庫刊行物以外の図書を交換用資料として活用することにした。今年度は近代中国研究室の協力を得て、同研究室作成の近代中国関係重複図書リストを以下の2機関に送付し、要望のあった図書を寄贈した。

実施時期	交換機関	送付リスト	寄贈数
平成6年9月 平成6年12月	The University of Michigan, Asia Library 中国国家図書館 (北京図書館)	中国書、和書59タイトル  和書13タイトル	10タイトル  7タイトル

いずれも少ないタイトル数にもかかわらず反応はよく、今後本格的に資料室の交換業務とする計画である。

## (3) 蔵 書 数

収蔵する蔵書総数は789,924冊で、和漢書452,837冊、洋書314,449冊、複写資料22,638冊である。



## 2. 資料の整理

### (1) 図 書

整理冊数は次の通りである。

和漢図書	2,336冊
欧米語図書	836冊
アラビア語図書	313冊
トルコ語図書	376冊
ペルシア語図書	855冊
ウイグル語図書	179冊
カザフ語図書	46冊
キルギス語図書	1冊

整理されたおもな図書には次のものがある。

(1)清代硃卷集成	150冊
(2)明清檔案	33冊
(3)徽州千年契約文書	40冊
(4)隋唐五代墓誌彙編	30冊
(5)新編中国方志類	161冊
(6)中国地方志集成 郷鎮志專輯	32冊
(7)稀見中国地方志彙刊	50冊
(8)Islamic Geography	76冊
(9)Census of India	33冊
(10)Satapitaka Series	49冊

和漢書目録室では平成5年度の蔵書点検の事後作業として①カード作成・補充・訂正、②ラベル貼替え、③分類訂正を引続き行った。

また洋書目録室では「南方史データベース作成」「チベット語データベース作成」及び「トルコ系諸語文献の整理」に当たっての指導を行った。

### (2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下の通りである。

『新着図書目録』42号 92p

『洋書速報 No.864——東洋文庫本特集』 42p

### (3) 雑 誌

受入タイトル・冊数は次の通りである。本年度新規受入数は100タイトルで、内訳は和漢62タイトル、洋雑誌38タイトルである。

	タイトル		冊数	
	和漢	洋	和漢	洋
受贈	888	245	3,770	927
購入	200	119	1,076	463
小計	1,088	364	4,846	1,390
計	1,452		6,236	

### (4) 新 聞

24種（中文23種、洋1種）

雑誌室では国立国会図書館、アジア経済研究所、東京大学東洋文化研究所、東京外国語大学と協力して南アジアに関する欧文、和文、その他の諸語の逐次刊行物総合目録の編纂を今年度も継続している。

外注製本の総量は新聞・雑誌合わせて1,156冊であった。

資料点数の急増、および資料のページ数増加は書庫スペース不足の原因のみならず、これにともなう資料整理時間の膨張が逐次刊行物の速報性を犠牲にしている点で問題である。そこで雑誌室は、ひとつの方策として、合冊製本の仕様に柔軟性を持たせ、資料の状況に応じて速やかに閲覧に供せる体制を検討中である。

## 3. 資 料 利 用 と 複 写 サービス

### (1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は398名で、内訳は教職員54名（外国人16名）、研究機関関係者36名（外国人12名）、大学院生86名（外国人27名）、大学生213名（外国

人9名)、その他9名であった。

閲覧開館日は229日、利用者数は4,211名、利用資料数は57,143冊で、詳細は下記の通りであった。

近代中国研究委員会収集資料の貸出は延べ625名で、1,533冊であった。内訳は中文819冊、日文594冊、欧文120冊であった。

東洋文庫職員及び関係者の研究室等での資料利用は延べ966名、9,789冊であった。

#### 開館日数および閲覧者数

	開 館 日 数		閲 覧 者 数		日平均	昨年同月 との比 (△印は減)
	日	累 計	人	累 計		
平成6年 4月	19	19	214	214	11強	△28
5	18	37	363	577	20強	94
6	21	58	376	953	18弱	78
7	20	78	432	1,385	22弱	71
8	21	99	485	1,870	23強	22
9	19	118	379	2,249	20弱	129
10	19	137	365	2,614	19強	△129
11	18	155	442	3,056	25弱	△35
12	17	172	412	3,468	24強	14
平成7年 1	17	189	214	3,682	13弱	△35
2	19	208	265	3,947	14弱	0
3	21	229	264	4,211	10弱	△40
計	229	(229)	4,211	(4,211)		141



## 閲覧カウンター出納冊数

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日 平 均	昨年同月との比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成 6 年										
4 月	123	226	497	2,601	139	225	759	3,052	161弱	△379
5	226	354	683	3,700	305	511	1,214	4,565	254弱	1,291
6	151	329	701	3,537	222	369	1,074	4,235	202弱	1,229
7	255	431	757	4,791	545	898	1,557	6,120	306	1,092
8	276	508	1,002	6,200	425	731	1,703	7,499	357強	△241
9	307	474	783	3,990	272	552	1,362	5,016	264	△636
10	277	547	713	3,841	258	486	1,248	4,874	256強	△2,191
11	314	531	731	4,140	377	724	1,422	5,395	300弱	△2,858
12	331	1,122	790	4,239	308	507	1,429	5,868	345強	273
平成 7 年										
1	274	503	379	1,935	136	209	789	2,647	156弱	△3,422
2	238	499	522	3,243	163	393	953	4,135	218弱	△747
3	238	552	569	2,795	203	390	1,010	3,737	178弱	△1,569
計	3,010	6,076	8,157	45,012	3,353	5,995	14,520	57,143		△8,158
比率	11%		79%		10%		100%			

## (2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記の通りであった。

### ●マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸数	ポジ・フィルム
661	66,110	67,638	6,588コマ

●電子複写

申込件数	焼付枚数
966	80,723

(3) レファンス

受付件数は目録室、閲覧室など合せて843件であった。

(4) 資料の貸出

博物館・美術館が主催して行う展覧会への貸出は4件で詳細は次の通りであった。

展覧会への資料の貸出一覧

	展 覧 会 名	主 催 者	展覧会期間	開 催 場 所	主な資料と数量
1.	近世演劇が生み出した英雄—景清展	早大坪内博士記念演劇博物館	平成6.6.24—7.14	早大坪内博士記念演劇博物館	『景清』万治2年刊本ほか2点
2.	日本のなかのアジア文化	広島県立歴史博物館	平成6.9.14—10.16	広島県立歴史博物館	『女直館雑字』ほか3点
3.	尾張名古屋の古代学—江戸時代の名古屋人がみた古代	名古屋市博物館	平成7.2.25—4.2	名古屋市博物館	『稲葉通邦稿本』15冊
4.	寛政の出版界と山東京伝	たばこと塩の博物館	平成7.3.2—3.17	たばこと塩の博物館	『青木絵外題集』ほか3点

(なお、上記の貸出資料の展示は会期中の2週間のみ行われた。)

(5) 「世界のなかの江戸・日本」

平成6年は財団法人東洋文庫創立70周年に当たった。これを記念して財団法人東洋文庫は、東京都江戸東京博物館、財団法人江戸東京歴史財団と共催して特別展示会「世界のなかの江戸・日本—(財)東洋文庫のコレクションを中心に—」を東京都江戸東京博物館1階の企画展示室で平成6年10月8日(土)～11月20日(日)の38日間開催した。展示は①東西の出会い、②日本が見た世界、世界が見た日本、③日本の開国、④(財)東洋文庫とアジア、の4部構成からなる。出陳資料の選定、展示会図録の原

稿作成及び校正作業において図書部および「展示品の選定及び展示図録作成の委員会」が協力した。展示資料としては、マルコ・ポーロ著、ピピノ訳『東方見聞録』（1485年刊）ほか196点を出陳した。なお重要文化財『ドチリーナ・キリシタン』は規定により10月20日までの2週間の展示にとどまった。企画展入場者は51,859人で1日平均入場者数は1,365人であった。期間中東洋文庫職員、兼任研究員延べ123名が展示資料解説並びに資料チェックのため常時待機した。

またこの展示会に関連する催しとして、シンポジウム「世界のなかの江戸・日本」が10月25日、東京都江戸東京博物館1階講演ホールで開催された（『東洋学報』第76巻3/4号彙報に詳記）。また、同館1階学習室1で「江戸東京博物館ふれあい体験教室一紙を知る」が開催され、11月13日、19日の両日「和装本の体験講座」、11月15日～18日「和装本修復の実演」に当文庫職員2名が講師として派遣された。前者には延べ80名の受講生が参加し、後者には期間中約600名が見学に訪れた。

なお、展示期間中、書籍の比重が高いことから生ずる平板さを解消するため、視覚的素材のなかの逸品を精選したハイビジョン映像（東洋文庫編「書」）を毎日15回放映した。

#### 4. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルムなど他の媒体への変換を行った。

作業項目と内容は下記の通りである。

(1) 漢籍地方志

裏打ち5,935葉、綴じ直し327冊、帙作製23帙。

(2) 貴重書（洋書）

清掃、クリーニング、オイリング及びラッパーパー作製153冊、補修94点、再製本3冊。

(3) その他の書庫内資料

近代中国研究委員会収集資料、目録室資料を対象。

本製本26冊、再製本と簡易製本80冊、ラッパーパー作製2点、帙作製14帙、補修8点。

(4) 紙焼資料

簡易製本343冊、仮帙作製104帙、紙折り30,277枚。

(5) 「世界のなかの江戸・日本」展出陳資料



資料カルテ作成250点、裏打ちと補修389葉、綴じ直し202冊、帙とラッパーパー作製20点、簡易製本1冊、フォルダー1点、清掃とクリーニング27冊、オイリング26冊。

(6) 資料の撮影

95,322齣、166リール（エッチング80齣を含む）劣化の激しい中国語雑誌、『満洲実録』および『大清聖祖仁皇帝実録』の一部。

(7) 活用フィルム作成のためのポジフィルムの作成

劣化資料の撮影フィルムを主として166リール。

(8) 資料の複製と他機関取り寄せフィルムからのプリント

『満洲実録』および『北京善本』など23,221枚。

## 5. 業務の機械化

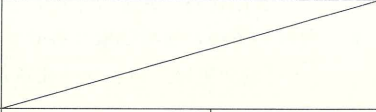
和漢書、洋書目録室ではマッキントッシュ LC575を2台導入し、機械化に着手した。本年度は機器操作の習熟とフォーマット開発に当たった。平成6年度文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」（データベース等）の交付により図書部では刊行済の『東洋文庫所蔵漢籍分類目録 史部』、『岩崎文庫和漢書目録』のデータベース化に着手した。

資料室では平成5年度より業務の機械化を進めており、すでに交換先や購入予算の管理、寄贈・交換図書の受入データはコンピュータの各ファイルに記録されている。平成6年度はそれらのファイルの改善を図るとともに、交換図書と送付先を一括管理するファイルを作成した。また、平成7年度からの使用に向けて、購入図書を発注から受入まで一括管理するファイルを作成した。

雑誌室では、平成5年度に引き続いて業務データを入力している。入力状況としては、タイトル・所蔵巻号など書誌的データが累積1万件強（和文中文は全タイトル）、領収日・入手経路など事務的データが累積4万件強（平成5年度以降受入の全巻号）を入力した。データは統計資料の作成や外注製本の管理に活用しているほか、簡単なレファレンス等にも対応している。

## 6. 書庫内資料と書架スペース

### (1) 書庫内資料の排架一覧とおもな調整箇所

階	1 号 棟	調 整 箇 所	2 号 棟	調 整 箇 所
6	朝鮮本、安南本、満洲本、蒙古本、和書（XIII～XVII・大型）			
5	Old Books, PB, MS, 漢籍稀覯書、岩崎文庫、銅版画、梅原考古資料、辻文庫		和書（II～XII）	書誌、書目、叢書
4	洋書（I～IX・大型） 第IIモリソン文庫・ベラルデ文庫		アジア諸語資料	アラビア・トルコ・ペルシア語文献を除くアジア諸語資料
3	漢籍（経部・子部・集部・叢書・大型）		洋書（X～XVII・XIX） モリソンバンフレット ロシア語別置資料	
2	漢籍（史部）	金石類、目録類	近代中国研究委員会収集資料	洋書
1	逐次刊行物（日・中・朝・新聞）	逐次刊行物（日・中・朝・新聞）	逐次刊行物（欧文）	

### (2) 書架スペースの不足

書架スペースは昭和58年の新書庫建設以来改善されず、一方研究出版活動のめざましい発展により資料の増加はいちじるしいものがある。すべての書庫は満杯に近く、資料の適正な排架ができない状態にある。なかでも1号棟1階の大型逐次刊行物・新聞書架及び和漢逐次刊行物の書架は平成7年度から、さらに2号棟1階の欧文逐次刊行物の書架は平成8年度から排架できなくなる。1号棟2階漢籍史部、2号棟2階近代中国研究委員会収集資料、2号棟4階アジア諸語資料の書架も近い将来満杯となるおそれがある。

## 7. メディア変換

国立国会図書館の協力で、貴重書資料のメディア変換作業を行った。

これは、高精度の資料の複製を作ること、将来における資料利用方式の進化への対応を考慮したものである。

下記の資料の撮影を行った。

国 宝	古文尚書（唐初書写）	61冊
	毛詩（唐時代書写）	23
	春秋経伝集解（平安時代書写）	38
	史記（天養2年書写）	58
	文選集注（平安中期書写）	246
	小 計	426
重 要 文 化 財	古文尚書（元徳2年書写）	29
	礼記正義（天延3年書写）	39
	論語集解（文永5年書写）	22
	論語集解（正和4年書写）	221
	樂善録（紹定2年刊）	231
	ドチリーナ・キリシタン（1592年刊）	73
	小 計	615
	合 計	1,041

この作業に先立って撮影対象資料の①保存状態、②形状についての記録、いわゆる「カルテ」を作成した。また鷲塚泰光監修指導「美術工芸品の取扱い方」のビデオ研修を行い、貴重書資料の取扱い方の実技訓練を実施した。



## II 研 究 事 業

### 1. 調 査 研 究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、文部省国庫補助金事業費による一般・特別の調査研究と、並びにその他の研究助成金などによるものとにわかれる。

#### i 文部省科学研究費による調査研究

##### 総合研究 (A)

【課 題】「ペルシア語古写本資料精査によるモンゴル帝国の諸王家に関する総合的研究」

【期 間】平成6年度（3ヶ年継続事業第2年度）

【目 的】① モンゴル帝国に関するペルシア語史料中にはモンゴル政権内部の者が著わした秀れた同時代史料が数多く存在するが、モンゴル政権の核心部分に関する記事は従来ほとんど看過されてきた。本研究はペルシア語古写本史料を利用し、一見「西アジア」、「イスラム」の要素が濃厚なペルシア語史料の表面的字面の奥深くに潜む遊牧国家固有の事象を抉り出し、モンゴル帝国の政権の構造が、匈奴以来一連の遊牧部族連合国家のそれと全く同一のものであることを実証すると共に、ペルシア語史料を典拠とする爾余の遊牧国家史研究に新たな道を開くことを目的とするものである。

② ペルシア語史料の表面的な字面の奥深くに潜む遊牧国家固有の事象を抉り出し、モンゴル政権の本質を究明しようとする試みは、従来の欧米・日本の諸先学の研究を根底から覆えす全くオリジナルな研究である。また、古写本史料中に挿入されているミニアチュール（細密画）と本文の記事とを比較対照して新たな知見を得ようとする試みも世界ではじめてのものである。こうした研究方法により、現在のモンゴル帝国史研究の世界最高水準の成果が期待でき、これを起点とするさらなる進展が予想される。

③ 本研究の成果は、匈奴、突厥、回鶻等の遊牧国家史研究において秀れた成果を挙げてきた日本学界の水準の高さを世界に問いうる出色の内容となろう。

【研究実績概要】

前年度に続き必須のペルシア語写本マイクロフィルムを大量に焼き付け、ゼロックス化して研究体制の強化をおしすすめた。各研究分担者の役割分担は下記の如くである。

① 研究代表者志茂は大量にプリント化したペルシア語写本史料を縦横に駆使して『モンゴル帝国史研究序説』を出版し、モンゴル帝国は、チンギス汗一門が準王族による特定部族の特定系統と共に政権の中枢を占め、爾余の一般のモンゴル諸部族と連合した遊牧部族連合国家であり、その国家構造は匈奴、突厥、回鶻等一連の遊牧国家の国家構造と全く同一のものであることを立証した。

② 「nūkar」, 「buzurg」, 「amīr-i mu'tabar」, 「amīr-i buzurg」等、従来普通名詞とみなされて研究の対象外に放置されてきた語がモンゴル帝国史上の重要術語であることを解明した。

③ イル汗国宰相ラシード・ウッディーンが第七代イル汗ガザンの勅命を承けて編纂した『モンゴル史』（『ガザン史』）と、同じくラシードがガザン汗の弟オルジェイト汗の命で編纂した『集史』中の「モンゴル史」は従来同一内容の著作と考えられていたが、実は、『集史』「モンゴル史」は原初の『モンゴル史』の改編版であり、両書は内容の異なる著作であることを明らかにした。

④ 従来、重要史料と見なされていたが成立年代その他詳細が不明であった『系譜集』「モンゴル系譜」がラシードが編纂した『集史』の附篇であることを明らかにした。

⑤ 『集史』「モンゴル史」のパリ国民図書館写本は14世紀イル汗朝時代の作品と考えられ、写本中に見られる多くのミニアチュールはモンゴル政権の諸相を示す貴重史料であることが判明した。

【研究代表者】 志茂碩敏研究員

【分担者】 統 轄： 志茂碩敏

西方班： 本田實信（イラン・イル汗国）、小山皓一郎（小アジア・イル汗国）、北川誠一（南ロシア東部・キプチャク汗国）、井谷鋼造（南ロシア西部・キプチャク汗国）

東方班： 加藤和秀（中央アジア・チャガタイ汗国）、杉山正明（モン  
ゴリア・元朝）、松田孝一（中国本土・元朝）

## 一般研究 (C)

【課 題】 「空思想の哲学的解明にむけての基礎研究」

[個人研究：福田洋一研究員]

【期 間】 平成6年度（3ヶ年継続事業初年度）

【目 的】 従来のインド仏教研究では、その研究対象を現代とは関係のない過去の出来事として扱ってきたが、仏教の中核をなす〈空〉についての思想は、単に異国の過去の一思想として扱われるべきものではなく、時代を越えて思索されるべき哲学として解明する価値のある思想である。本研究では、この空思想を哲学的に解明するために必要な基礎作業の遂行を課題とする。従来この種の研究はあまり高い評価を受けてこなかったように思われるが、その理由として考えられるのは、まず、基礎的な作業を抜きにした恣意的な読み込みに立脚した研究であったこと、および、西洋哲学的な表現の衣装を纏うことに急で、思想自体の深い理解に欠けていたこと、そして思想を再構築する際に従来の西洋哲学的概念構造を持ち込んでいることなどが指摘できる。中観思想のように既存の概念では把握しがたい哲学を明瞭な日本語によって解明するためには、その原典で扱われる概念を、関係する文献中のコンテキストにおいて正確に把握し、さらに、それを論理的な言葉で再構成する必要がある。そのためには膨大な文献の通読が必要であるが、幸いチベット語文献については、Asian Classic Input Project としてコンピュータ入力が始まっているので、それを元に機械処理を行ない、関連箇所の検索や索引の作成が容易になってきた。そこで、本申請者はこの研究を、準備段階とそれを用いた次の段階との二段階で計画している。まず準備段階として、コンピュータが提出してくれる豊富な情報・用例に基づいて、重要な概念の意味をコンテキストの中で正確に把握する。第二段階として、その概念を申請者が続けてきた仏教倫理学の知識によって哲学的に再構築する。

【研究実績概要】

平成6年度は本研究課題の初年度にあたるので、主に研究環境の整備に重点を置いた。まずコンピュータおよび周辺機器・ソフトウェアを購入し機械処理の準備を整えた。近年、コンピュータの技術が進歩し、パソコン上でもチベット語を扱うことができるようになってきたが、そのために必要なチベット文字フォント、サンスクリット語転写用のフォント、ローマ字転写からチベット文字へのコンバーター、同様にデーバナーガリー文字へのコンバーター、データベース作成支援のユーティリティなどを作成した。これらの一部は個人的な使用を目的としているが、フォントやコンバーターなどは公開を前提として作成している。中でもサンスクリット語転写フォントはすでに希望者に配布を始めている。

また、西洋哲学・仏教学関係の資料を購入した。今回の研究課題である空思想は過去思想ではなく、きわめて現代的な意味を持った哲学であり、内容的にも言語哲学・認識論・存在論など、主要な哲学的テーマに関わっているので、当該問題領域を精査するためにも現代哲学の諸動向に関する資料を努めて収集した。また、仏教は単なる哲学にとどまらず、生き方の問題に直結するはずのものであるので、宗教としての仏教を理解するための資料も収集・読解した。

チベット語文献の講読会を主催し、ツォンカパの『入中論』注釈を講読し、無自性や空の哲学的考察を進めた。ほかにチベット論理学の基礎文献の講読、俱舍論のグライラマー世による注釈の講読などを始めた。現在のグライラマの書いた仏教入門書の和訳・注解作業に関わり、従来難解とされてきた帰謬論証派の空思想の理解を深めることができた。また、中観思想の創始者ナーガールジュナの思想的意味についても考察を加えた。

#### 研究成果公開促進費（データベース等）

【名称】「東洋学総合情報システム」

〔東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫〕（平成6年度新規採用）

【分野】「アジアの諸言語で書かれた文献およびその研究文献」

【目的】 本データベースは、アジア諸国語によって書かれた文献の所蔵目録、国内所在目録、解題目録、研究文献目録、古典的文献のテキストデータベースなどを含んでいる。これらはいずれも学術研究上、必須の基



礎資料であることは論をまたない。これらを、特定のコンピュータに限定されないフォーマットで作成し、一般の研究者に情報公開をすることは、日本の東洋学研究の発展に大いに寄与するであろう。

現在、東洋学研究においてもコンピュータを利用した研究は徐々に増えつつあるが、現状では個々の研究者、あるいは特定の研究機関がそれぞれ固有の方法で入力しているために、データの互換性・統一性・公共性を確保されていない。また、コンピュータ上でアジア諸言語を直接扱う方法は、殆ど手つかずの状態であり、それについての情報を普及させる必要がある。そこで本データベースでは、日本の各研究機関や当該分野の研究者との連絡をとりつつ、特定機器に依存せず、しかも複数の言語を同時に統一的に処理するデータ処理方法を確立し、一般の利用者に広く情報を還元することを目標とする。

#### 【研究実績概要】

アジアの諸言語で書かれた文献とその研究文献の総合的なデータベースを目指す。今年度はオリジナルの文字による入力としては東洋文庫所蔵のアラビア語・トルコ語・チベット語の文献目録（年次と種類を限る）の入力を進めた。その他にインド学の文献を中心とする辻文庫、和漢書の岩崎文庫、漢籍の「史」部、中央アジア・イスラム関係の研究文献目録、チベット語歴史書のテキストデータなどを作成した。

#### 特別研究員奨励費（日本学術振興会）

【課 題】 「「統制」期中国経済の歴史的展望」

【個人研究：金丸裕一（日本学術振興会特別研究員）】

【期 間】 平成6年度（2ヶ年継続初年度，2ヶ年目就職のため辞退）

#### 【研究実績概要】

本年度に実施した研究は、次の通りである。先ず第一に、日本国内（主に京都大学経済学部図書館）と香港（香港大学馮平山図書館・香港中文大学図書館・新亞研究所）及び台湾（中央研究院近代史研究所）における史料調査と蒐集。研究課題における「統制」期とは、概ね日中戦争開始から「改革・開放」政策の実施に至る期間を想定しており、今年度は特に戦時期に焦点をあてた。ここにおいて最大の制約は文献史料の圧倒的不足であり、この打開が課題となるため、特に力を注い

だ。その結果、①京大経済図書館には相当数の戦前の雑誌が所蔵されており、利用のみならず整理が必要な状況にある事（この点は、他大学とくに旧高商系でも同様と推測される）、②香港には戦火（日中戦争や文化大改命）を逃れて保管され続けた史料が多く、マイクロ化も進んでいる事、③台湾の場合、1937～45年にかけての史料が相対的に少ない事が判明した。第二に、これら史料状況を意識した研究史の整理。中国側においては、相当数の史料が南京第二歴史档案館等を中心に現存しているにも拘らず、戦時統制経済の実態解明とは程遠い研究状況にあり、議論がいまなお「官僚資本」や「国家独占資本主義」の概念問題に傾倒している点が指摘できる。また日本では、民国期経済史研究の急激な進展の中に在って、戦時期以降の考察は極めて少なく、事実関係の発掘を含め、今後への課題が大きいといえる。

これらを踏まえて、次年度以降実施すべきと思われるのは、日本人研究者としての利点を最大限発揮できる研究である。即ち、我国の活動が中国経済に多大な影響をもたらした占領地及び傀儡政権たる汪精衛政権統治下の状況に関して、日本国内における史料発掘に努め、更に中国・台湾の研究動向を意識しながら、1949年以降に繋がる「統制」の実態を検討する計画である。

## ii 一般調査研究

本年度は、特に、近代中国研究委員会、南方史研究委員会を中心に調査研究を行った。（研究課題の後に付された●印は、文部省国庫補助金事業費使用担当として、また◆印は、東洋文庫の学術情報提供費により主に重点的に行った事業を表わす。）

### 東亜考古学術研究委員会

【資料の整理・出版】① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。

### 古代史研究委員会

【資料の整理・研究】① 中国都市研究会の開催。

② 東洋文庫所蔵越南本書目の作成。（前年度の継続）

③ 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。

### 唐代史（敦煌文献）研究委員会

- 【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献及びそれらの研究成果の公開、および情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。
- ④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上、前年度の継続）

### 宋代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『宋史選舉志訳註(二) (三)』研究、訳註の作成。
- ② 『宋史食貨志訳註(三) (四) (五)』研究、訳註の作成。❶
- ③ 『宋会要輯稿食貨索引——職官編』の作成。❷ （以上、前年度の継続）
- ④ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

### 明代史研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『万曆野獲編』（元明史料筆記叢刊）を主として、明代社会経済に関する文献の講読・研究。（隔週、研究会の開催）
- ② 『千頃堂書目著者名索引』の作成

### 清代史（満・蒙）研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 「東洋文庫所蔵満洲檔」の整理・研究。
- ② 『天聰七年満文檔冊』の講読研究会の開催。（隔週、研究会の開催）（以上、前年度の継続）

### 近代中国研究委員会\*

- 【資料の整理・研究】 ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 日中現代史研究会の開催。
- 4月8日(金) 尾形 洋一 「東洋文庫所蔵の東省鉄路に関する資料について」
- 5月27日(金) 安藤 正士 「戦後日中関係の諸問題」
- 7月1日(金) 白井 勝美 「リットン調査団について」
- 9月9日(金) 光田 剛 「『白堅武日記』にみる白堅武と豊台兵変への過程」
- 中村 義 「明治期日本人の中国旅行記について」
- 10月21日(金) 西条 正 「情報伝達機関としての交通局」

12月 2日(金) 本庄比佐子 「明治期日本人の中国記録」

3月17日(金) 小林 元裕 「1920年代天津における日本人居留民」

- ③ 『東洋文庫(別置)近代中国関係欧文図書分類目録(付索引)』の作成●

#### 日本研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅱ』の作成。(前年度の継続)

- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

#### 朝鮮研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。(前年度の継続)

- ② 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

#### 中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・整理・研究】 ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。

- ② イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。(以上、前年度の継続)

4月16日(土) 松井 康子 「イスラムの辺境・海港都市セウタ——その景観と人々」

5月21日(土) 森本 一夫 「ターリビーコーンの系譜学——系譜学者と『サイイド』達」

6月18日(土) シンポジウム 「イスラームにおける文学と歴史意識」(発表者：岡 真理、近藤 信彰、山中由里子、山尾 京子)

7月16日(土) 青山 弘之 「イスラム同胞団の政治活動——イスラム社会主義からイスラム革命まで」

10月15日(土) 平野 豊 「16世紀サファヴィー朝の「首都」カズヴィーンの文化状況について」

11月19日(土) 栗山 保之 「イエメン・ラスール朝初期政治史とウラマー」

12月17日(土) 高野 太輔 「ネストリウス派のカトリコス——もう一つの西アジア史」

1月21日(土) シンポジウム 「93-94年のイスラーム関係出版物・出版事情を振り返って」

(発表者：山岸 智子、大川 玲子、清水 和裕)

2月25日(土) 渡部 良子 「イルハン朝のタージーク官僚——中央統治体制



#### と権力構造」

- ③ 『東洋文庫所蔵アラビア語、トルコ語文献目録補遺』の作成。❖
- ④ イスラム社会の構造の研究。
- ⑤ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。(以上、前年度の継続)
- ⑥ 隊商貿易史の研究。

#### チベット研究委員会\*

- 【資料の収集・整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。  
② チベット学に関する研究会の開催。(以上、前年度の継続)

#### 南方史研究委員会

- 【資料の収集・整理・研究】 ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・  
収集・研究。  
② ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。  
③ 辻文庫目録(3)及び荻原文庫目録の Index の作成。(以上、前年度の継続)  
④ 『東洋文庫所蔵東南アジア・インド関係文献目録(仮題)』●の作成。

(なお、研究委員会名に\*印の付した委員会は、「iii特別調査研究」の事業を別途に行っている。また、平成6年度の文部省国庫補助金による事業担当の委員会において、別途に研究上不可欠な図書資料64冊を購入した。)

### iii 特別調査研究

#### チベット特別調査研究 (チベット研究委員会)

【目 的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

#### 【事業内容】

- 1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究  
チベット研究委員会招聘のチベット人研究者(ゲールク派・デプン寺ゴマン  
学堂長 Kenpo of Gomang Datsang College) Tempa Gyaltsen 氏の協力の



もとにより下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として、各文献の奥書きを収集し解説、分析を進めた。
- ② 現代チベット語について口語資料を収集し、記述的研究を進めた。
- ③ サキヤ・パンデイタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。
- ④ 『スタイン目録』注記篇の編集を進めた。
- ⑤ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol.4の調査・編集作業を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書	マイクロ・フィッシュ
数 量	7 冊	148冊	2,610コマ

3) 研究成果の刊行

- ① 『トゥカン一切宗義』第7巻「ゲールク派章」 B 5 判 1 冊 (刊行済)
- ② 『東洋文庫所蔵チベット語活字本目録』 B 5 判 1 冊 (刊行済)
- ③ 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5 判 1 冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和 漢 書	洋 書
数 量	863冊	87冊

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究集報』 第17号 A 5 判 1 冊 (刊行済)

#### iv その他の研究助成金による事業

##### 三菱財団人文科学研究助成金特別事業

【課題】 「宋史食貨志の総合的研究」 （宋代史研究委員会）

【期間】 平成3年10月～平成6年9月（3ヶ年間）

【目的】 宋史食貨志にかぎらず歴代の正史食貨志は、国家財政をいかに運用するか、という観点より纏められたものであるから、それによって国民経済の実態を掴むことはできない。したがって、従来の中国经济史研究は、ともすると食貨志の活用に怠るところがあった。しかしながら、国家財政が国民経済に与える影響は軽視できないものであり、それを理解するためには、国家の理財観、具体的や財政政策を的確に把握しておくことがまず求められる。宋史食貨志は、その要請に応じてくれる最良の書といえよう。日本においては嘗て、その翻訳が二三試みられ、最近中国においても、歴代食貨志注釈の一部として、宋史食貨志注釈書も数種類刊行されている。しかしわれわれの目指すものは、本文を一条ごとに徹底的に検討し、その詳細さでは類書の水準をはるかに越えようというものである。われわれは既に昭和35年、『宋史食貨志訳註』(一)を刊行したが、今回、宋史食貨志研究を再開し、訳註の完成をめざすとともに、宋代財政運営の在り方を再検討しようというものである。

##### 【研究終了報告】

宋史食貨志上 巻4「屯田」・「常平義倉」、巻5「役法(上)」, 巻6「役法(下)」・「振恤」以下、食貨志下 巻1～8まで、代表及び共同研究者が分担して訳註稿を作成する一方、基礎的作業として、『宋会要輯稿』食貨一般語彙索引をも作成するというのが具体的な研究方法であった。

今年度は、既に作成した「役法(上・下)」及び下の巻6「茶」の訳註稿について、関係資料の再調査と字句の点検を継続させ、パソコンへの入力を完成させた。また「屯田」・「常平義倉」・「振恤」の各訳註稿の作成も完了させ、パソコンへの入力もほぼ完了している。『宋会要輯稿』食貨索引一般語彙篇については、時間的制約から職官語彙に限って作成することとし、カードの点検・調査をほぼ終了させることが

できた。

宋史食貨志訳註稿作成作業によって得られた成果を、「役法」（地方官庁或いは郷村における事務及び労務。賦税とともに被治者に課せられる二大負担の一つ）について見れば、王安石の役法改革（差役法により募役法へ）前後の、資料の所在と論点を明示できたことである。役法研究は少なくないが、本訳註の如く、年次を追って丹念に検証したものはない。本訳註が刊行されれば、宋朝の末端支配の変遷及びその意義等再検討のための指針が与えられ、学会に裨益するところ多大であると自負するものである。

【代 表 者】 中嶋 敏研究員

【分 担 者】 柳田節子、千葉哭、斯波義信、渡辺紘良の東洋文庫研究員及び  
藤井宏元国士館大学教授

【課 題】 「中東イスラム世界における政治権力と宗教：総合研究」

（中央アジア・イスラム研究委員会）

【期 間】 平成4年10月～平成7年9月（3ヶ年間）

【目 的】 この研究は、中東イスラム世界の内部構造を歴史的パースペクティブのもとで総合的に検討しようとする試みである。日本における中東イスラム史研究は近年急速に進展しつつあるが、今後はより一層機能的な共同研究が必要となるであろう。本研究では、これまで東洋文庫中央アジア・イスラム研究室が主催してきた「イスラム国家論研究会」における研究成果をふまえ、同研究室の研究員が中心となって新しい共同研究を展開することになる。われわれは研究にあたって、「権力構造の特質」、「都市からの展望」、「イスラムと近代」という3つのサブテーマを設定したが、これは、第一に、共通テーマに対して政治・経済史、社会史、そして思想史という3つの異なった方法論でせまること、第二に、各サブテーマについて異なった時代と地域（アラブ・イラン・トルコ）の事例を相互に比較検討することを意図したからである。本研究は、このような作業をとおして、われわれの世界史認識や異文化理解の深化に寄与するのみならず、「イスラム原理主義」の台頭や民族紛争の激化など、現在の中東問題を的確に理解するための視座

を見いだすことを目的としている。

## 【研究実績概要】

### (1) 共同研究

本年度の第一の成果は、イスラム史をとおして広く見られる都市の仁俠集団に関して行ってきた共同研究の成果を刊行したことである。『イスラム社会のヤクザ——歴史を生きる仁俠と無頼』（第三書館、240頁、1994年6月刊）というやや刺激的なタイトルをもつ本書は、佐藤次高・清水宏祐・八尾師誠・三浦徹（以上、共同研究者）が、中世および近代のイラン・アラブ地域において、アイヤール、ズール、ルーティーなどとよばれた都市の仁俠・無頼集団について行った実証研究をまとめた論文集であり、イスラム社会研究への新しいアプローチの方法を提示したものである。これは、上記の3つのサブテーマすべてにわたりつつ、同時に時代と地域間の比較検討をも意図している。今回はおもに歴史学の方法を用いたが、今後は文学研究、言語学、美術史、文化人類学などとの提携も考えられるであろう。

小松久男と三浦徹は、それぞれ中央アジアとアラブ地域のイスラム都市に関する、欧米・ロシア・ソ連・中東諸国におけるこれまでの研究史を検討した旧稿（羽田正・三浦徹編『イスラム都市研究——歴史と展望』東京大学出版会、1991年所収）を増補改訂した英語版を完成させた（1994年11月、Kegan Paul International, Londonより刊行予定）。これは、サブテーマ2に関する基礎研究の一つであり、新たな都市論の構築が今後の課題である。

### (2) 個別研究

昨年度からサブテーマ1および3と取り組んでいる永田雄三（共同研究者）と小松久男は、その成果をそれぞれ「18・19世紀ボスニア地方の人々」『アジア・アフリカ言語文化研究』46・47合併号（1994年7月、437-473頁）、「イスラームの過去と現在」石田進編『中央アジア・旧ソ連イスラーム諸国の読み方』（ダイヤモンド社、1994年2月、59-73頁）として発表した。さらにサブテーマ3に関する研究成果としては、小松「中央アジアの変動とイスラーム復興」『国際問題』411号（1994年6月、44-55頁）、八尾師誠「イラン——多民族国家イランを織りなす人々」鈴木董編『中東人国記』（総合法令、1994年7月、219-244頁）をあげることができる。

### (3) 国外における成果の発表



海外の研究者にたいして本研究の成果を伝え、将来の国際的な共同研究のネットワークを構築していくこともわれわれの課題の一つであり、本年度は次の成果をあげた。

Sato, T. & M. Nakajima, "Recent Development in Chinese Islamic Studies (3): Survey of Research Institutions in Yunnan", *Asian Research Trends*, No. 3, 1993, pp.131-142.

Nagata, Y. & M. Nagata, Saraybosna Şeriyeye Sicilleri Üzerine bir İnceleme (XII. Türk Tarih Kongresi, Eylül 1994, Ankara: トルコ語による口頭発表)

Komatsu, H., "The Program of the Turkic Federalist Party in Turkistan(1917)", H. B. Paksoy ed., *Central Asia Reader: The Rediscovery of History*, New York, 1994, pp.117-126.

#### (4) 研究会・講演会の開催

今年度は、東洋文庫において下記の「イスラム国家論研究会」および講演会を開催し、共同研究の充実と情報の交換をはかった。

○シンポジウム「イスラームにおける地域主義(2)」問題提起：堀井聡江（東京大学）・山中由里子（東京大学）（1993年12月18日），○村田靖子（京都大学）「アンダルスにおけるムフタシブとスーク」（1994年2月19日），○後藤裕加子（東京大学）「13・14世紀イランにおける3つの地方政権——フォーク・イスラム台頭に関する考察」（3月19日），○松井康子（慶応大学）「イスラムの辺境・海港都市セウタ——その景観と人々」（4月16日），○森本一夫（東京大学）「ターリビューンの系譜学——系譜学者と『サイド』たち」（5月21日），○シンポジウム「イスラームにおける文学と歴史意識」問題提起：岡真理（東京外国語大学）・近藤信彰（東京大学）（6月18日），○アジ・ヌル・アジ（新疆社会科学院）「新疆におけるイスラーム研究の基本状況」（7月25日），○章瑩（新疆社会科学院）「新疆・旧ソ連中央アジア間の経済関係の現状」（7月25日）。

#### (5) 研究資料の収集

まず、本研究に必要な図書資料として、今年度はイスラム復興主義の成長が著しいアルジェリアで刊行されたアラビア語文献212点、アゼルバイジャンを含む旧ソ連中央アジアのトルコ系諸国で刊行された図書189点をはじめとして、合計453点の研究文献を購入した。これらについては共同研究者と研究補助員によって整理が進められている。当初の計画では、帝政ロシア統治下の中央アジアで刊行されたトルコ語



およびペルシア語の新聞・雑誌資料（マイクロフィルム）も購入する予定であったが、フィルム作成が遅れたため、購入は来年度に延期することにした。また、共同研究者の各メンバーは、必要に応じて京都大学、京都外国語大学、大阪外国語大学、東洋文庫などで史料の調査・収集にあたった。

来年度は本研究の最終年度にあたるため、遅れがちであった研究資料の収集を急ぐとともに、上記の3つのサブテーマを横断、総合した共同および個別研究の成果の発表を期している。国外における研究成果の発表もまた重要な課題の一つである。（未完）

【代 表 者】 小松久男研究員

【分 担 者】 永田雄三、佐藤次高、清水宏祐、八尾師誠、三浦徹の東洋文庫研究員

【課 題】 「満洲語文献の総合的研究」（清代史〈満蒙〉研究委員会）

【期 間】 平成6年度（3ヶ年継続事業初年度）

【目 的】 清朝の歴史を考察する際、その第一公用語であった満洲語文献を利用した研究が不可欠な状態となっている。これら満洲語文献は、現在、中国、台湾、日本のほか世界各地に所蔵されており、すでにいくつかの地域で、個別に所蔵目録が作成されている。そのうち「檔案（公文書）」資料については、すでに今回の研究グループは、平成3・4年度の文部省科学研究費補助金（総合研究A、研究代表者：神田信夫）を得て、その概要を報告している。また、中国、台湾における満洲語文献の状況については、各研究者がすでに十分な調査・研究とそれら資料保管機関との強い関係を有している。しかしながら、世界的な満洲語文献の統一の把握といった問題については、いまだ充分になされているとはいえず、各研究者が重複して調査を実施しているケースもみられる。ここに世界的な視野からみて、各地に所蔵される満洲語文献を総合的に把握し、データベース化が急務となっている。この作業のまず第一歩として、世界中の満洲語の刊本（木版印刷本）の実態調査（書名、作者、刊行年月、保存機関、保存状況等）を実施し、ユニオンカタログを作成して、世界中の満洲語文献研究者ひいては清朝史研究者の要求に応えたい。

## 【研究計画・実績概要】

世界の満文文献は、中国、台湾を中心に日本、ヨーロッパ（ロシアを含む）、アメリカ合衆国等に存在する。ただ、満文文献のうち文書資料については、中国の北京にある中国第一歴史檔案（文書）館だけでも約400万件以上保存されているといわれ、その全貌を把握することはきわめて困難である。それ故、本研究では数量上の問題から、満洲語諸文献のうち主として清朝時代に出版された「刊本」（木版本）の調査・研究をすすめた（一部「鈔本」〈抄写本〉を含む）。また海外、とくに中国、台湾における実態調査は、基本的にすでに採択が内定している文部省科学研究費助成金（国際共同研究）によって実施し、国内における実態調査と国際共同研究では計上されていない欧米での補完調査、そしてその両者の成果の総合的研究および整理をすすめた。これら各研究者が集積したデータは、随時、研究会において討議し、各文献の異同を確認しつつ総合的把握を行った。また、各年度別には以下のような研究を実施する。

○ 平成6年度は、日本各地ならびにアメリカ合衆国等を中心とする満洲語文献保存機関において調査・研究を実施し、とくに「刊本（木版本）」を中心としてデータを集積した。このデータは、所定のカードにて記録を行ない、データベース・ソフトを利用してコンピュータに登録した。

○ 平成7年度は、平成6年度の継続調査を実施し、連合王国（イギリス）等海外での調査の結果を総合して、より充実したデータの集積を行なう。

○ 平成8年度は最終年度であり、平成6、7年度の補完調査（日本およびアメリカ合衆国等）と、集積した満洲語文献、とくに刊本データの集積を行なって、総合的なデータベースを作成し、『世界満洲語刊本目録』（仮題）編纂の基礎作業を行う。

本研究の経費の多くは、調査段階での資料複写費用ならびに旅費、それらの集積した資料に関する研究会開催のための諸費用、そして資料のデータベース化を行うための整理、入力手数料（謝金）である。

【代 表 者】 神田信夫研究員

【分 担 者】 松村潤，加藤直人，中見立夫，石橋崇雄の東洋文庫研究員及び  
細谷良夫東北学院大学教授

## 生化学工業株式会社寄付金特定事業（南方史研究委員会）

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト

[プロジェクト代表者：山本達郎研究員]

【期間】 平成元年度～同6年度（6ヶ年計画）

【目的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

【事業内容】 1) モリソン2世文庫：前年度に引き続き、文献目録作成のため、コンピュータに入力したデータのチェックを行っている。  
2) 東南アジア関係の資料の収集に努めている。

## 榎一雄記念特定事業

【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト[プロジェクト代表者：河野六郎研究員]

【期間】 平成2年度～同6年度（5ヶ年計画）

【目的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄博士旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。

【事業内容】 1) コンピュータ・ソフトの修正が済み、入力したもののテストを行った。目下本格的に入力中。  
2) 榎文庫の整理は前年度に引続き行った。その中、単行本については、平成6年度までに累計和漢書10,500冊、洋書8,000冊のカードを作成した。  
3) コンピューターに入力したものをチェックし、校正を開始している。

## v 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成6年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、外国人研究員、奨励研究員、日本学術振興会特別研究員なども各々の専門研究分野に応じて便宜上12研究委員会のいずれかに所属させた。

### 第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄，田村晃一，西江清高  
古代史：宇都木 章，越智重明，太田幸男，大櫛敦弘  
唐代史（敦煌文献）：池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本 明  
宋代史：草野 靖，佐伯 富，斯波義信，竺沙雅章，千葉 熒，中嶋 敏  
柳田節子，渡辺紘良，周 振鶴，梁 紫紅，陳 洪真，賈 晉珠  
明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺 宏  
近代中国：市古宙三，滋賀秀三，田中正俊，本庄比佐子，矢澤利彦，欧陽 菲  
金丸裕一，鄭 海麟

### 第2部 日本研究

日本：石塚晴通，上野英二，海野一隆，酒井憲二，佐竹昭広，田中時彦，枋尾 武  
鳥海 靖，宮崎修多，柳田征司，山口謡司，（亀井 孝）

### 第3部 東北アジア研究

満洲・蒙古（清代史）：石橋崇雄，岡田英弘，加藤直人，神田信夫  
C.A.ダニエルス，中見立夫，松村 潤  
朝鮮：梅田博之，大江孝男，河野六郎，武田幸男，古屋昭弘，森岡 康  
山内弘一，徐 秉運

### 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦，片山章雄，後藤 明，小松久男，佐藤次高  
清水宏祐，志茂碩敏，薮 勇造，杉山正明，永田雄三，花田宇秋  
林佳世子，本田實信，三浦 徹，護 雅夫，八尾師 誠  
マリア・サキム，小松香織  
チベット：川崎信定，北村 甫，立川武蔵，西田龍雄，福田洋一，星 實千代  
松濤誠達，御牧克己，山口瑞鳳，テンパ・ゲルツェン

## 第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，池端雪浦，石井米雄，小名康之，風間喜代三，後藤均平  
永積洋子，原 實，三根谷 徹，山崎元一，山本達郎，水野善文

## 2. 学 術 図 書 出 版

### 東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第76巻第1・2号 平成6年10月刊 A5判 228頁

『東洋学報』 第76巻第3・4号 平成7年3月刊 A5判 238頁

### 東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko” No. 52 1994年刊  
B5判 135頁

### 東洋文庫各種研究委員会刊行物

#### チベット研究委員会

『トゥカン一切宗義』 第7巻「ゲールク派章」 平成7年3月刊 B5判 1冊  
140頁

『東洋文庫所蔵チベット語活字本目録』 平成7年3月刊 B5判 1冊 160頁

『チベット特別調査研究年次報告』 平成7年3月刊 A5判 1冊 70頁

#### 近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』 第17号 平成7年3月刊 A5判 121頁

#### 中央アジア・イスラム研究委員会

『東洋文庫所蔵トルコ諸語文献目録（補遺）』 平成7年3月刊 B5判 1冊  
vi+391+30頁

『東洋文庫所蔵アラビア語文献目録補遺』 平成7年3月刊 B5判 1冊 ix+  
792+4頁

#### 宋代史研究委員会

『宋会要輯稿食貨索引』 職官篇 平成7年3月刊 B5判 1冊 5+328頁



### 東洋文庫諸目録・其他刊行物

- 『東洋文庫新着図書目録』 第42号 平成7年3月刊 B5判 1冊 92頁  
 『東洋文庫書報』 第26号 平成7年3月刊 A5判 1冊 182頁  
 『東洋文庫年報』(平成5年度版) 平成6年9月刊 A5判 1冊 94頁  
 『東洋文庫ハイビジョン“書”Handbook』 平成6年5月刊 A4判 1冊 30頁  
 『(財)東洋文庫要覧'95/'96』(和文編) 平成7年3月刊 A4判 1冊 24頁

## 3. 講演会

### 春期 東洋学講座(共通テーマ:華僑一過去・現在・未来—)

- 第421回 平成6年5月17日(火) 東洋文庫研究員  
 「歴史のなかの華僑」 国際基督教大学  
 教授 斯波 義信氏
- 第422回 平成6年5月24日(火)  
 「Pax Sinicaの解体と華僑社会の形成」 立教大学教授 戴 国輝氏
- 第423回 平成6年6月7日(火)  
 「アジア太平洋の時代と中国人・中国系人の世紀」 亜細亜大学教授 游 仲勲氏

### 秋期 東洋学講座(共通テーマ:シンポジウム「世界のなかの江戸・日本」)

- 第424回 平成6年10月25日(火)  
 「十六世紀の世界図と日本」 東京大学教授 五野井隆史氏
- 「オランダ商館長の参府と江戸の蘭学」 城西大学教授 永積 洋子氏
- 「漢語洋書の日本への渡来」 国際基督教大学  
 教授 斯波 義信氏
- 「日本の開国と琉球」 東京大学助教授 横山 伊徳氏

(本年度の秋期東洋学講座は、平成6年10月8日(土)～11月20日(日)にかけて江戸東京博物館にて開催された「世界のなかの江戸・日本——(財)東洋文庫のコレクションを中心に——」と題する展示会会期中に行われたシンポジウム「世界のなかの江戸・日本」と兼ねて行われた。なお、シンポジウムの司会者は、芳

賀徹氏であった。)

特別講演会 (不定期)

第1回	平成6年5月6日 (金) 「宋学の展開について」	河北大学歴史系 教授	漆 俠氏
第2回	平成6年5月20日 (金) 「East Asia as Seen from the Arab World」	カイロ大学東アジ ア経済研究セン ター特別顧問	Anouar Abdel Malek 氏
第3回	平成6年7月12日 (火) 「唐代変化中の南朝素因」	武漢大学歴史系 教授	牟 發松氏
第4回	平成6年7月15日 (金) 「前近代における日本人訪中者の活動 について」	中国社会科学院 歴史研究所 副研究員	夏 応元氏
第5回	平成6年7月25日 (月) 「新疆イスラーム研究の現状」	新疆社会科学院 宗教研究所 元副所長	Aji Nur Aji 氏 (阿吉・努尔阿吉)
第6回	平成6年7月25日 (月) 「新疆貿易経済の現状について」	新疆社会科学院 中亜研究所 副研究員	章 瑩氏
第7回	平成6年10月27日 (金) 「チベット文献学」	ロシア科学アカデ ミー東方学研究 所研究員	L.サビッキー 氏
第8回	平成6年10月27日 (金) 「オルホン碑文テキストにおける 若干のデータの解釈について」	ロシア科学アカデ ミー東方学研究 所研究員	L.トゥグー シェワ氏
第9回	平成6年10月27日 (金) 「西夏の文化と中国文化」	ロシア科学アカデ ミー東方学研究 所副所長	E.クチャー ノフ氏
第10回	平成6年11月4日 (金) 「Middle Eastern Law ; The state of research」	Director, SOAS Univ. of London	Chibli Mallat 氏

第11回 平成7年1月27日(金)  
「Ibn Taymiyya and His Thought」

Director, Office of  
Ecumenism and  
Interreligious  
Affairs in Bang-  
kok, Thailand Dr. Tom  
Michel 氏

#### 4. 研究会(東洋文庫談話会)

・平成7年2月10日(金)

「出土遺物より見た殷、周王朝の交替と文化  
の継承関係」

東洋文庫奨励 西江 清高氏  
研究員

・平成7年2月10日(金)

「雲夢秦簡に見える「邦」と「秦」」

文部省内地研究員 大櫛 敦弘氏  
高知大学助教授

・平成7年2月24日(金)

「ムガル期のインドのヒンドゥー王宮詩人」

東洋文庫奨励 水野 善文氏  
研究員

・平成7年3月24日(金)

「民国経済史研究の諸問題——日本の近業  
を中心に」

日本学術振興会 金丸 裕一氏  
特別研究員

#### 5. 研究者養成

中国研究 西江 清高 「中国先秦時代の考古学的研究」

インド研究 水野 善文 「中世ヒンディー文学の研究」

トルコ研究 小松 香織 「近代オスマン海軍史研究」

#### 6. 学術情報提供

##### i 研究者の交流および便宜供与のサービス

##### 1) 国内研究者の受入

大楠 敦弘	文部省内地研究員 高知大学助教授	「中国出土文字資料の研究」
金丸 裕一	日本学術振興会 特別研究員	「『統制』期中国經濟の歴史的展望」

## 2) 外国人研究者の受入

Tempa Gyaltsen	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」(平成元年5月以降招聘)
謝 肇華	遼寧省社会科学院 副院長	「清朝に関する文献調査及び日本人研究者との共同研究」(平成6年9月27日～12月27日 国際交流基金の招聘)
何 溥滢	遼寧省民族研究所 研究員	「清代満族の研究」(平成6年9月27日～12月27日・私費)
陳 洪真	中国北京市鉄鋼研究総院 研究員	「中国冶金技術発達史——特に宋代經濟史における鉄・銅等技術史の研究」(平成5年度以降2ヶ年間・私費)
欧陽 菲	北京工業大学講師	「日中近現代における経営の比較史的研究」(平成5年度以降2ヶ年間・私費)
徐 秉運	韓国外務統一委員会 立法審議官	「韓日近現代外交史の研究」(平成5年8月～同6年7月末1ヶ年間・大韓民国国立国会事務處派遣費)
賈 晉珠	Columbia Univ. Graduate School of East Asian Language and Cultures Ph. D. Candidate	「宋～明時代福建・建陽を中心とする印刷史及び書籍の流通について」(平成6年6月15日～12月14日半年間・Fulbright-Hays Grant 派遣費)
梁 紫紅	Columbia Univ. Graduate School of East Asian Language and Cultures Ph. D. Candidate	「宋代の經濟政策について」(平成5年10月12日～同6年4月11日半年間・Fulbright-Hays Grant 派遣費)
鄭 海麟	深圳大学行政科助教授	「中国の知識人と民主化運動」(平成7年1月以降1年間・東京崇正公会の招聘)

3) 研究者の派遣

4) 外国人研究者への便宜供与

Australia

Tessa Morris-Suzuki      Dr., Senior Fellow, Research School of Pacific  
and Asian History, Australian National  
University.

李 塔娜      Lecturer, Dep. of History and Politics,  
University of Wollongong.

Canada

M. Este' lami      Prof. of Persian Literature, Institute of Islamic  
Studies, McGill Univ.

Raymond Gauthier      Ph. D., International Development Research  
Center, Ottawa.

China (People's Republic)

徐 建新      中国社会科学院世界歴史研究所助理研究員

夏 応元      "      歴史研究所副研究員

張 正明      山西省社会科学院歴史研究所研究員

欒 成顕      中国社会科学院歴史研究所研究員

漆 俠      河北大学歴史系教授

牟 發松      武漢大学歴史系教授

陳 力      西北大学西北歴史地理研究室講師

凍 國棟      武漢大学歴史系教授

虞 雲国      上海師範大学歴史系副教授

李 振溪      南開大学語言文化学院講師

章 瑩      新疆社会科学院中亜研究所副研究員

阿吉・  
努尔阿吉      中国新疆社会科学院宗教研究所所長、副研究員

謝 俊美      上海華東師範大学教授

常 建華      南開大学歴史系副教授

謝 肇華      遼寧社会科学院副院長、研究員

何 溥澄      遼寧省民族研究所研究員

周 紹泉      中国社会科学院歴史研究所研究員



周 勛初	南京大學中文系教授、南京大學古典文獻研究所所長
艾尼瓦爾· 阿布都拉	新疆大學物理系講師
任 繼愈	北京圖書館館長
孫 承鑑	〃 副館長
金 鳳吉	〃 採訪委員會副主任
劉 一平	〃 分館副館長
蘇 愛榮	〃 閱覽部主任代理
童 超	中國社會科學院歷史研究所副所長、研究員
施 丁	〃 〃 研究員
解 莉莉	〃 外事局副譯審
熊 秉真	〃 近代史研究所研究員
陳 捷	北京大學中國語言文學系講師
巴· 格日勤因	內蒙古大學蒙語系教授
王 維閣	遼寧省檔案館副館長
張 秀春	〃 〃 研究館員
吳 福勝	〃 〃 〃
李 紹德	〃 〃 技術部主任、副研究館員
沈 微	〃 〃 副研究館員
起 喚林	〃 〃 〃
王 天平	〃 〃 館員
鄭 海麟	深圳大學行政科助教授
景 占魁	山西省社會科學院
閔 嘉祿	遼寧社會科學院歷史研究所副所長
秦 國經	中國第一歷史檔案館副館長
李 宏為	中國第一歷史檔案館
武 克全	上海社會科學學會連合會副主席
陳 麟輝	上海社會科學學會連合會《探索爭鳴》副社長
羅 蘇文	上海社會科學院歷史研究所所長助理 副研究員
周 振華	上海社會科學院經濟研究所研究員
熊 文彬	中國藏學研究中心
朱 鳳翰	南開大學歷史系教授
武 安隆	南開大學歷史系歷史研究所
黃 明敏	中國社會科學院

許 宏 山東大学歴史学考古系講師  
趙 沛霖 天津社会科学院文学所研究員

#### China (Taiwan)

徐 正祥 台湾国立政治大学教授  
楊 辛斐                                 "  
陳 良吉                                 "  
蒲 慕州 台北中央研究院歴史語言研究所人類学組主任研究員  
熊 守真 台北中央研究院  
黃 福慶 台北中央研究院近代史研究所研究員

#### Egypt

Umar Abd al-Wāhid (財)中近東文化センター・カイロ・ハウス研究員  
Hāfiz Muhammad                                 "  
Anouar Abdel- Dr., Emeritus Prof, Special Adviser for Asian  
Malek Affairs, National Center of Middle East  
Study, Cairo Univ.

#### France

Bastid Bruguière Directeur de Recherche, Centre National de la  
Recherche Scientifique.

#### Hong Kong

蔡 志祥 香港科技大学人文学部講師  
Carl T. Smith Royal Asiatic Society, Hong kong Branch.

#### Germany

ナランゴワ ボン大学日本文化研究所

#### Korea (Republic)

洪 性敏 韓国東西經濟社会研究院教授  
權 赫来 延世大学校教授  
鄭 求福 韓国精神文化研究院教授  
河 宇鳳 金北大学校史学科教授  
金 薰鎬 順天大学校中文科教授  
金 俊憲 高麗大学校中文科教授  
古玉玄元 韓国伽山仏教文化研究院教授  
趙 東一 ソウル大学人文大学教授  
具 良根 誠信女子大学人文大教授

## Netherlands

V. Georgieva

Prof., Sinological Institute, Leiden Univ.

## Russia

Evgenij Kychanov

Dr., Prof., Deputy Director, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg), Russian Academy of Sciences.

L. Savitskii

Prof., Institute of Oriental Studies (St.  
Petersburg), Russian Academy of Sciences.

L. Tugusheva

Prof., Institute of Oriental Studies (St.  
Petersburg), Russian Academy of Sciences.

## Sudan

M. A. G. H. Al-Safi

Director, Institute of African and Asian Studies,  
Univ. of Khartoum.

## U. K.

Chibli Mallat

Dr., Director, Centre of Islamic and Middle  
Eastern Law, SOAS, Univ. of London.

## U. S. A.

De-Min Tao  
(陶 德民)

Assist., Prof., Dept. of History, Bridgewater  
State College, Massachusetts.

David Wolff

Assist., Prof., Dept. of Sociology, Princeton  
Univ. New Jersey.

Craig Dietrich

Prof. of History, Univ. of Southern Maine,  
Maine.

袁 清

Prof. of History, Wright State Univ. Ohio. (俄亥俄州賴特州立大學歷史系)

Lucille Chia

Ph. D. Candidate, Columbia Univ. Graduate  
School of East Asian Language and Cultures.

李 龍賢

South Asian Department, Univ. of  
Wisconsin-Madison

## ii 研究会等への会場提供サービス

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	24	30	30	31	6	28	29	30	23	18	27	47	323回
参加人数	138	416	362	314	63	198	252	208	161	123	164	348	2,747人

## iii 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第75巻 3・4号	500部
東洋学報 第76巻 1・2号	500部
東洋文庫所蔵梅原考古資料目録III	50部
近代中国研究彙報第16号	70部
東洋文庫欧文紀要第51号など3種	各 50部
チベット仏教宗派史	100部

## iv 参考情報提供サービス

- 1) 『東洋文庫年報』平成5年度版 A 5版 1冊 96頁
  - 2) 『宋会要輯稿食貨索引——職官編』 B 5版 1冊 333頁
  - 3) 『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語文献目録(補遺)』 B 5版 2冊 805頁・427頁
  - 4) 『東洋文庫ハイビジョン“書” Handbook』 A 4版 1冊 30頁
  - 5) 『(財)東洋文庫要覧'95/'96』(和文編) A 4版 1冊 24頁
- (上記の出版については、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)

※ なお、《6.学術情報提供》における「図書資料の閲覧(協力)サービス」,「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I.図書事業』の項目に便宜上掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」,「研究資料の補修再製本・製本」については、平成5年度とくに報告することはない。



## 7. 職員の研究業績

期間：平成6年4月1日～平成7年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田 温

③「唐朝開元後期土地政策の一考察」（『堀敏一先生古稀記念中国古代の国家と民衆』汲古書院，391～408頁，1995年3月），④「研究ノート唐令と日本令（一）唐令復原の研究史」（創価大学人文論集7，144～175頁，1995年3月），⑤「敦煌・吐魯番文献圖録の決定版」（東方164，27～32頁，1994年11月），「礪波護編『中国中世の文物』」（東洋史研究53巻3号，188～198頁，1994年12月），「山田信夫著『ウィグル文契約文書集成』」（法制史研究44，271～277頁，1995年3月），⑥「林子雄「和刻本『二十七松堂集』初考」」（汲古25号，65～74，51頁，1994年6月），⑦「吐魯番・敦煌功德録和有关文書——日本古代願文的源流」（敦煌研究院創立五十周年紀念敦煌学國際學術討論会，1994年8月13日），「唐令と日本令」（第44回東方学会全国會員總會，1994年11月4日，要旨：東方学89，161頁，1995年1月），⑧「中国における日本学の現況一瞥」（出版ダイジェスト1506号1面，1994年4月1日），「『日本学者研究中国史論著選訳』十巻の刊行について」（日中文化交流No.547，10頁，1994年9月1日），「北京の日本学研究センター」（季刊中国No.38，38～47頁，1994年9月），「仁井田陞」（江上波夫編著『東洋学の系譜』第2集，257～267頁，1994年9月），「エドゥワール＝シャヴァンヌ」（しにか5－5，108～113頁，1994年5月），「フールスウェ教授の訃」（東方学89，113～148頁，1995年1月）。

石井 米雄

③「暹・スコタイ・アユタヤ（試論）」（東方学89，1～16頁，1994年3月），“The Muslims and the Royal Patronage of Religion” (*Law & Society Review* (special issue), vol. 28, No. 3, pp. 453-460, 1994), “Some aspects of the 15th century Ayutthayan port-polity as seen from a Ryukyuan source” (*South East Asian Research*, Vol. 2, No. 1, pp. 53-63, March 1994)。

石橋 崇雄

③「清初皇帝権の形成過程——特に『丙子年四月<秘録>登ハン大位檔』にみえる太宗ホン・タイジの皇帝即位記事を中心として」(東洋史研究53—1, 98~135頁, 京都大学文学部, 1994年6月), 「清朝文献史料考——特に「遼寧省図書館特蔵部」所蔵の満・蒙・藏文書籍をめぐって」(国史館史学2, 33~67頁, 国史館大学文学部国史学・東洋史学専攻, 1994年6月)。

上野 英二

③「説話の生態の一例——更級日記に見る」(成城国文学論集23, 成城大学大学院文学研究科1995年3月), 「和歌」(『講座日本文学と仏教第9巻 古典文学と仏教』, 岩波書店, 1995年3月), ⑤「岩崎文庫貴重書書誌解題稿——古活字版の部(二)」(東洋文庫書報26, 1~17頁, 1995年3月)。

梅田 博之

③「韓国語の母音」(言語研究106, 1~21頁, 日本言語学会, 1994年11月), “Age Differentiation of the Vowel System in the Seoul Korean : Acoustic Measurements” (*Journal of Asian and African Studies*, Nos.48-49, Thirtieth Anniversary Commemorative Issue 2, pp. 443-453, Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 1995. 1.), 「I P A (revised to 1993) による韓国語の音声表記」(音声学会会報206, 62~65頁, 日本音声学会, 1994年8月), ⑦「韓国語の母音について」(日本言語学会第108回大会・会長就任講演, 於横浜国立大学, 1994年6月11日), 「日本語と韓国語の家族関係の聞き手敬語の対照研究」(荻野綱男・金東俊・羅聖淑・盧顕松と共同研究)(日本言語学会第108回大会研究発表会, 於横浜国立大学, 要旨: 言語研究106, 147頁, 1994年11月)。

梅村 坦

③「中央アジアと新疆——地域に立って世界を眺めると」(国際交流67, 101~108頁, 国際交流基金, 1995年4月), ⑤「森安孝夫著『ウイグル=マニ教史の研究』」(東洋史研究53—1, 167~175頁, 東洋史研究会, 1994年6月), ⑦「最近の日本人による新疆調査——ユルドゥズ草原研究への道程」(日本沙漠学会第5回学術大会, 1994年5月25日), 「中国新疆牧地について」(日本沙漠学会沙漠誌分科会第1回研究会, 1994年6月14日), 「ユルドゥズ」(第31回日本アルタイ学会, 1994年7月19日), 「中国新疆の民族とイスラーム——石油事情に関連して」(イスラーム圏との共存の条件に関する調査研究, 1994年11月8日),

“Some Uyghur Inscriptions in the Ruined Buddhist Temple of Beshbalıq: On the Titles of Qocho Uyghur King and the Date of the Inscriptions” (Annemarie von Gabain und die Turfanforschung, Berlin, 1994年12月10日), 「シルクロードの過去と現在」(中央大学クレセントアカデミー文芸・教養講座, 1994年5月11日/5月25日/6月8日/6月22日/7月6日/9月21日/10月5日/10月19日/11月2日/11月16日), ⑧「マルク・オーレル・スタイン」[欧米の東洋学4](しにか5-7, 102~107頁, 1994年7月), 「絹馬(茶馬)貿易」(歴史学事典, 第1巻<交換と消費>, 233~238頁, 弘文堂, 1994年), 「オアシス・遊牧世界」(クロニク世界史, 314~315頁, 講談社, 1994年), 「中央アジアと中国——新疆調査旅行から」(草のみどり77, 30~34頁, 巻末カラー写真1頁, 中央大学父母連絡会, 1994年7月), 「モスク探訪——内蒙古篇」(窓 No.5, 1~3頁, 社団法人日本イスラム協会, 1994年10月)。

#### 海野 一隆

③「『拾芥抄』古写本における地図」上・下(ビブリア101, 2~23頁, 102, 2~21頁, 天理図書館, 1994年5月, 10月), 「司馬江漢と地図」(朝倉治彦等編『司馬江漢の研究』, 3~60頁, 八坂書房, 1994年8月), “Maps of Japan Used in Prayer Rites or as Charms” (*Imago Mundi : The International Journal for the History of Cartography*, 46, pp. 65-83, London 1994), “Cartography in Japan” (*The History of Cartography*, ed. by J. B. Harley & D. Woodward, Vol. 2, pp. book 2, 346-477, The University of Chicago Press, 1994), ④「ハリー地図学史研究奨学金第1回授与」(科学史研究190, 94頁, 日本科学史学会, 1994年6月), ⑧「『新製地球万国図説』(附編) 所載世界図」(洋学<洋学史学会研究年報>2, 口絵解説, 八坂書房, 1994年4月), 「倭国・ジパング・大日本——地図の中の日本」<講演要旨>(ビブリア101, 97~106頁, 天理図書館, 1994年5月), “Japankarten für Gsbetsriten sowie als Talisman” (*Cartographica Helvetica : Fachzeitschrift für Kartengeschichte*, 10, pp. 20-23, Cartographica Helvetica, Juli 1994), 「オルテリウス地図帳の表題」(学鑑91-8, 4~7頁, 丸善, 1994年8月), 「平安時代の地理教育」(パイオニア50, 3~4頁, 関西地理学研究会, 1994年10月), 「稲垣定穀, 新発田収蔵, 長久保赤水, 沼尻墨僊, ノルデンショルド, 樋口謙貞」(『朝日日本歴史人物事典』174, 793, 1189, 1287, 1301, 1366頁, 朝日新聞社, 1994年11月), 「江戸時代の本初子午線, タバコ島」(堀淳一編『地図』<日本の名随筆・別巻46>, 69~85頁, 作品社, 1994年12月), 「世界地図の中のアジア——西方からの視線, カルタ——日本に伝わった地図, タイの伝統的海図」(月刊しにか6-2, 8~21, 48~49, 64~65頁, 大修館書

店, 1995年2月)。

#### 宇都木 章

②『古代揚子江の至宝——中国歴史文化都市鎮江文物展』(監修, 津市教育委員会, 1994年10月, 119頁), ③「魯の貴族政治——特に軍事権の問題」(『東アジア世界の展開』, 35~55頁, 汲古書院, 1994年3月), 「山東省における東夷文化の概要と問題」(『東北アジアにおける支石墓の研究——特に山東省を中心として』, 1~8頁, 三菱財団学術研究助成金, 代表・田村晃一, 1994年6月), ⑧「古代呉国について(概説)」(『古代揚子江の至宝——中国歴史文化都市鎮江文物展』監修, 津市教育委員会, 1994年10月)。

#### 大江 孝男

③「朝鮮語の語尾-da と日本語の「助動詞」da——発話と文と形式」(『アジア・アフリカ言語文化研究』第48・49合併号(創立30周年記念号2), 359~369頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 平成7年3月), ⑦「朝鮮語の語尾-da と日本語の「助動詞」da——発話と文と形式」(『東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 創立30周年記念 公開シンポジウム——アジア・アフリカ諸言語研究における現代的課題——Current Issues in the Study of Languages of Asia and Africa』, お茶の水スクエアA館2階ルーム6, 1994.6.10(金):平成6年6月), 「ワード・プロセッサのハングルコード」(朝鮮文)(発表要旨:『≪'94 Korean コンピュータ処理国際学術会議(1994.8.6~8:中国吉林省延吉)≫論文集』2, 126~128頁, 主管中国延辺朝鮮族自治州科学技術協会, 中国延辺朝鮮族自治州民族事務委員会;主催:中国延辺電子情報センター), ⑧「〈インタビュー〉朝鮮語学に造詣の深い本物の日本人学者(朝鮮文)」(『東北科学技術新聞(東北朝鮮族科技報)』, 1994年8月15日月曜日甲戌年7月9日(7月17日処暑)第328号第3面“学術会特集”, ≪'94Korean コンピュータ処理国際学術会議(1994.8.6~8:中国吉林省延吉)≫, 中国吉林省延吉市), 「〈インタビュー〉話し合いの姿勢から正さなくては(朝鮮文)」(『吉林新聞』, 1994年9月, ≪'94Korean コンピュータ処理国際学術会議(1994.8.6~8:中国吉林省延吉)≫, 中国吉林省延吉市)。

#### 太田 幸男

③「侯外廬『中国古代社会史論』の意義について」(『堀敏一先生古稀記念中国古代の国家と民衆』, 801~816頁, 汲古書院, 1995年3月)。



岡田 英弘

①『日本史の誕生』(弓立社, 1994年10月, 254頁), ②『絵で見る中国の歴史 第1巻 原始社会から戦国時代』(原書房, 1995年2月, 532頁), 『絵で見る中国の歴史 第2巻 秦の統一から漢の時代』(原書房, 1995年3月, 505頁), ③「世界史の構想と日本史 文明で異なる歴史の意味」(産経新聞夕刊平成6年12月12日号, 4面, 産業経済新聞東京本社, 1994年12月12日), 「特集 耶馬台国はここにある 論告10 耶馬台国狂言説 魏志倭人伝は虚像を今に伝えている」(歴史法廷8, 60—61頁, 世界文化社, 1995年3月), 「『史記』と『ヒストリアイ』——中国人にとって歴史とは何か」(月刊しにか6—4, 64—71頁, 大修館書店, 1995年4月), ④「第三十七回国際アルタイ学会」(東洋学報76—1・2, 98—104頁, 1994年10月), ⑤「『中国マクロヒストリー』黄仁宇著, 山本英史訳」(月刊しにか5—11, 116—117頁, 大修館書店, 1994年11月), ⑦「遊牧民の帝国: 匈奴からモンゴルまで1 ユーラシア草原の文明: スキュタイ王国」(朝日カルチャーセンター, 1994年4月15日), 「東アジアの中の倭国」(東アジアの古代文化を考える会, 豊島区区民センター, 1994年4月23日), 「遊牧民の帝国: 匈奴からモンゴルまで2 最初の遊牧帝国匈奴: 冒頓から劉濞まで」(朝日カルチャーセンター, 1994年5月6日), 「遊牧民の帝国: 匈奴からモンゴルまで3 トルコ人の出現: 遊牧と都市文明の融合」(朝日カルチャーセンター, 1994年5月20日), 「遊牧民の古代史」(東アジアの古代文化を考える会, 豊島区勤労福祉会館, 1994年5月28日, 要旨: 東アジアの古代文化ニュース22—4/5, 3頁, 1994年5月), 「遊牧民の帝国: 匈奴からモンゴルまで4 チンギス・ハーンの帝国: アジアの統合」(朝日カルチャーセンター, 1994年6月3日), 「日本誕生」(深層文化研究会, 渋谷区氷川区民会館, 1994年6月4日), 「モンゴル年代記の物語」(あけぼの会, 中野区立歴史民俗資料館, 1994年6月8日), 「遊牧民の帝国: 匈奴からモンゴルまで5 モンゴル帝国の継承国家: ロシアと中国」(朝日カルチャーセンター, 1994年6月17日), “Chinggis Khan's wise sayings: How old are they?” (The 37th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Chantilly, France, 1994年6月21日), 「講演」(日本モンゴル文化交流協会, モンゴル国ブルド, 1994年8月17日), 「ベルリンとウランバートルから中央ユーラシアを見る」(国際関係基礎研究所, ホテル・オークラ別館12階星雲の間, 1994年9月20日, 要旨: アカデミー月報98, 10—11頁, 1994年10月, 全文: 同名冊子1—34頁, 1994年11月), 「耶馬台国の位置」(婆羅の会, 根岸社会教育館, 1994年9月22日), 「新世界史(5) 古代の韓半島1 韓半島の夜明け: 中国人と「朝鮮」族」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1994年10月14日), 「チンギス・ハーンの子孫たち モンゴル帝国後史1 全世界征服の天命: チンギス・ハ

ーンの生涯」(朝日カルチャーセンター, 1994年10月21日), 「日本史の誕生」(古代を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館, 1994年10月26日), 「新世界史(5) 古代の韓半島 2 前漢の武帝が楽浪郡などの四郡を置く」(朝日カルチャーセンター, 1994年10月28日), 「チンギス・ハーンの子孫たち モンゴル帝国後史 2 大元帝国の正統: フビライ・ハーン家の変遷」(朝日カルチャーセンター, 1994年11月4日), 「フビライ・ハーン(元の世祖)」(中国史を学ぶ会, 中野区勤労福祉会館, 1994年11月7日), 「新世界史(5) 古代の韓半島 3 高句麗王国と百済王国と倭国の河内王朝」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1994年11月11日), 「チンギス・ハーンの子孫たち モンゴル帝国後史 3 アルタン・ハーンとダライ・ラマ: 仏教伝播」(朝日カルチャーセンター, 1994年11月18日), 「新世界史(5) 古代の韓半島 4 隋・唐の中国統一と新羅の韓半島統一」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1994年11月25日), 「チンギス・ハーンの子孫たち モンゴル帝国後史 4 清帝国とモンゴル: ジューンガル部族の滅亡」(朝日カルチャーセンター, 1994年12月2日), 「清の康熙帝」(中国史を学ぶ会, 中野区女性会館, 1994年12月5日), 「新世界史(5) 古代の韓半島 5 高麗王朝がモンゴルに征服されるまで」(朝日カルチャーセンター・横浜, 1994年12月9日), 「チンギス・ハーンの子孫たち モンゴル帝国後史 5 現代のモンゴル: 復活したチンギス・ハーン」(朝日カルチャーセンター, 1994年12月16日), 「日本再考——国民・国家・民族というカテゴリーを単純に使わず, これからの日本・世界をどう考えるか」(図書新聞2228号, 1—3面, 1995年1月1日, 川勝平太との対談), 「日本史の誕生」(「新しい人間観の研究」研究会, P H P 総合研究所, 1995年1月10日), 「皇帝たちの肖像 1 漢の武帝」(朝日カルチャーセンター, 1995年1月20日), 「皇帝たちの肖像 2 唐の太宗李世民」(朝日カルチャーセンター, 1995年2月3日), 「皇帝たちの肖像 3 元の世祖フビライ・ハーン」(朝日カルチャーセンター, 1995年2月17日), 「皇帝たちの肖像 4 明の太祖洪武帝朱元璋」(朝日カルチャーセンター, 1995年3月3日), 「皇帝たちの肖像 5 清の聖祖康熙帝」(朝日カルチャーセンター, 1995年3月17日), ⑧「T O K Y O 十字路(東京クロスロード) モンゴル正史を書く宮脇淳子さん 草原の「大帝国」消えた歴史追う」(東京新聞夕刊18565号, 1面, 1994年4月12日, 談話), 「西洋の資本主義と東洋の資本主義」(同名冊子36~38頁, 国際関係基礎研究所, 1994年5月, 川勝平太への質問), 「NHKスペシャル 始皇帝 第2回 覇王・中国に君臨す」(NHK総合テレビ, 1994年10月21日, 監修), 「<サクセス列伝>チンギス・ハーン」(朝日新聞1994年12月21日号, 14版, 11面, 1994年12月21日, 広告監修), 「草原の風景」(月刊健康425, 6~7頁, 1995年2月1日, 随筆)

越智 重明

③「漢時代の庶民の娯楽（１）」（久留米大学文学部紀要 国際文化学科編 5，83～116頁，久留米大学，1994年 6 月），「漢時代の庶民の娯楽（２）」（久留米大学文学部紀要 国際文化学科編 6，1～37頁，久留米大学，1995年 3 月），⑦「サーカス芸の道——シルクロード・中国から日本へ」（久留米大学公開講座「アジアと福岡の芸能」，1994年 9 月 3 日，要旨：久留米大学広報89，1994年10月）。

風間 喜代三

③「バンベニスト『インド・ヨーロッパ諸制度の語彙集』と歴史言語学」（国文学解釈と鑑賞，1995年 1 月号，158～162頁），「印欧語学の問題点」（法政大学教養部紀要93 人文科学篇，1995年 2 月，1～24頁）。

加藤 直人

②『中国清朝文書史料に関する国際研究集会の企画立案』（平成 5 年度科学研究費補助金（総合研究 B）研究成果報告書，1995年 3 月），『日本大学文理学部史学科所蔵漢籍分類目録』（日本大学学術研究助成金研究成果報告書，1995年 3 月），⑤「東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所創立三十周年記念国際学術セミナー『中国東北地域をめぐる史料の諸相』」（満族史研究通信 4，東洋文庫清代史研究委員会・満族史研究会，1994年12月，87～92頁），⑦「関于清代双城堡屯墾」（清史国際学術討論会，中国・瀋陽市，1994年 8 月），⑧「杜爾伯特蒙古族自治県の満洲語関係調査」（満族史研究通信 4，東洋文庫清代史研究委員会・満族史研究会，1994年12月，69～73頁）。

川崎 信定

①『CD版 原典訳チベットの死者の書』（筑摩書房，1994年 4 月25日刊），③「一切智の思想研究について——人間の知とそれを超えるもの」（学術月報48—1「学術研究の動向」，日本学術振興会，1995年 1 月，6～12頁），「チベットの仏教と東アジア——近藤重蔵著『喇嘛考』を通して考える」（『講座・東アジアの仏教』第一巻，春秋社，1995年 4 月刊行予定），⑦「人間の知とそれを超えるもの」（第 84 回日本学士院賞受賞記念講演会，筑波大学講堂，1994年 6 月10日），「密教について」（築地本願寺文化講座，東京築地本願寺，1994年 9 月 3 日），「心とはなにか？——仏教の視点から語る（マールンクヤブツとマイトラカニヤカ——二人の若者のこころの求め方）」（松阪大学開学三十周年記念講演会，1994年10月22日），「人間の知とそれを超えるもの——一切智思想研究を通しての考察」（豊山派教学大会特別講演，真言宗豊山派宗務所，1994年11月25日），「臨死体験とチベ



ットの死者の書」(シンポジウム『臨死体験』, 人体科学第四回大会, 筑波大学, 1994年11月27日), 「河口慧海師と『チベットの死者の書』」(大正大学公開講座シンポジウム「河口慧海五十回忌記念講演会・河口慧海の世界——チベット仏教文化の流れ」, 大正大学・豊島区教育委員会, 1994年11月3日), 「一切智研究の目指すもの」(大谷大学仏教学会・特別講演, 大谷大学, 1994年12月9日), 「こころとは?」(船橋市主催, 市立宮本公民館, 1995年2月24日)。

神田 信夫

③“Correspondence between Hong Taiji and Mao Wen-lung” (*Proceedings of the 35th Permanent International Altaistic Conference*, pp. 183~188, Taipei 1993), ⑤“Proceedings of the 35th Permanent international Altaistic Conference” (満族史研究通信 4, 100~102頁, 満族史研究会, 1994年12月), ⑦「日本における満洲族史の研究と史料の追求」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所創立30周年記念国際学術セミナー「中国東北地域をめぐる史料の諸相」, 1994年10月21日), ⑧「薛虹先生を憶う」(明代史研究22, 1~3頁, 明代史研究会, 1994年4月), 「三たび福陵を訪ねて」(満学協会会報 5, 26~27頁, 満学協会, 1994年6月), 「鑲紅旗檔」(東京人 No. 86, 68頁, 東京都文化振興会, 1994年11月), 「『旧満洲檔』を求めて——その3」(満族史研究通信 4, 8~12頁, 満族史研究会, 1994年12月), 「東洋史用語の解説」(現代用語の基礎知識 1995, 1232~1238頁, 自由国民社, 1995年1月)。

河野・六郎

①『文字論』(三省堂, 1994年9月, 160頁)。

後藤 均平

⑤「原宗子著『古代中国の開発と環境——『管子』地員編研究』」(中国研究月報 49-1, 44~45頁, 中国研究所, 1995年1月), ⑧「銷夏二題」(史苑55-1, 99~102頁, 立教大学史学会, 1994年10月)。

小松 久男

① M. Haneda & T. Miura eds., *Islamic Urban Studies : Historical Review and Perspectives*, Kegan Paul International, London, 1994, 365pp. (担当部分: Central Asia, pp. 281-328), ③「中央アジアの変動とイスラーム復興」(国際問題 411, 1994年6月, 44~55頁), ⑥“The Program of the Turkic Federalist Party in Turkistan (1917): Commentary and Translation”, H. B. Paksoy ed.,



*Central Asia Reader : The Rediscovery of History*, M. E. Sharpe, New York, 1994, pp. 117-126., ⑦“Türkistan’da Türk Federalist Partisi” (XII. Türk Tarih Kongresi, Ankara, 1994. 9. 14., Bildiri Özetleri, Ankara, 1994, p. 40), 「フィトラトの『東方政策』について」(東洋史研究会, 京都大学, 1994年11月3日), 「韃靼の志士とイスラム世界」(内陸アジア史学会大会, 早稲田大学, 1994年11月12日), 「基調報告 トルコの民族と文化」(日本イスラム協会主催シンポジウム, 慶應義塾大学三田校舎, 1994年11月26日), 「中央アジアにおけるイスラム復興の現状」(アジア社会問題研究所, 1995年2月14日), 「イブラヒムの旅——イスラム世界, ロシアそして日本」(第30回トプカプサロン, 日本トルコ文化協会, 京都, 1995年3月10日), ⑧「中央アジア訪問記」(海外学術調査ニュースレター26, 国際学術研究総括班, 1994年3月, 21~24頁), 「マルクスからティムールへ」(『西アジアを学ぶ300冊』, アジア民族文化フォーラム, 1994年7月, 13頁), 「中央アジアの歴史と文化」(『新世界民族音楽大系・解説書1』, 平凡社, 1995年2月, 144~145頁), 「中央アジアの百年」(『丸善エンサイクロペディア・大百科』, 丸善, 1995年2月, 1632~1633頁)。

#### 佐伯 富

- ①『事物異名録索引』(朋友書店, 1995年3月, 250頁), ③「歴史上における茶の問題」(追手門学院大学文学部東洋文化学科年報9, 16~22頁, 1994年11月), ⑧「回紇の宋・遼・金入貢表(未刊)」(1995年3月15日, 5頁)。

#### 佐藤 次高

- ①『イスラム社会のヤクザ——歴史を生きる仁侠と無頼』(共著, 第三書館, 1994年6月, 240頁, 担当: 1~7, 63~116, 238~240頁), ③「聖者イブラヒム伝説——アラブの心を読む」(へるめす54, 12~24頁, 岩波書店, 1995年3月), ⑦「旅は道づれイクター制」(野尻湖クリルタイ, 1994年7月19日), 「勝利の都カイロ」(渋谷区民大学講座「都市でつづるイスラーム文明」, 1994年11月18日), 「世界史のなかのイスラーム」(三菱金曜会講演, 1995年3月10日), ⑧「小高先生と万定のカレーライス」(中東研究390, 11頁, 中東調査会, 1994年4月), 「ヴェラム装アラビア語文書」(東京人86, 69頁, 都市出版, 1994年11月), 「七都市歴史紀行——イクター制の新史料を求めて(1)」(歴史と地理471, 25~34頁, 山川出版社, 1994年11月), 「七都市歴史紀行——イクター制の新史料を求めて(2)」(歴史と地理474, 23~32頁, 山川出版社, 1995年2月)。

酒井 憲二

①『甲陽軍艦大成（第1巻 本文篇上）』（汲古書院，1994年4月，10+587頁），『甲陽軍艦大成（第2巻 本文篇下）』（汲古書院，1994年8月，570頁），『甲陽軍艦大成（第3巻 索引篇）』（汲古書院，1994年12月，4+1050頁），①『甲陽軍艦大成（第4巻 研究篇）』（汲古書院，1995年1月，420+18頁），②『歌舞伎評判記集成（第2期 別巻）』（共編）（岩波書店，1995年3月，208+332頁），③「甲陽軍艦の語彙」（語文89，13頁，1994年6月），「改稿：中世末の言葉の揺れ」（調布日本文化5，15頁，1995年3月），⑦「信玄をとりまく文学の世界」（武田氏研究会，山梨県立文学館講堂，1995年1月）。

志茂 碩敏

①『モンゴル帝国史研究序説——イル汗国の中核部族』（東京大学出版会，1995年2月，12+500+18頁），⑦“Two Important Persian Sources on the Mongol Empire”（第37回常設国際アルタイ学会（PIAC），1994年6月23日），⑧「ペルシア語写本マイクロフィルムの蒐集」（東洋文庫書報26，160～164頁，1995年3月）。

斯波 義信

①『華僑』（岩波書店（岩波新書382），1995年3月，232頁），③「チャイニーズ・コネクション」（川勝平太監修『新しいアジアのドラマ』，筑摩書房，1994年5月，37～57頁），④「『東洋趣味』から『アジアの学』へ」（江戸東京歴史財団・財団法人東洋文庫共催企画展示図録『世界のなかの江戸・日本——（財）東洋文庫のコレクションを中心に』，129～131頁，1994年10月），「中国史学と社会科学の関連」（史滴16，1994年12月），⑦「歴史のなかの華僑」（東洋文庫春季東洋学講座，1994年5月17日，要旨：東洋学報76—1・2，105～106頁，1994年10月），「冒頭発言」（文部省科学研究費重点領域研究「総合的地域研究」総括班主催研究集会，1994年11月19日），「函館の華僑について」（横浜開港資料館企画展示講演会，1994年12月10日），「比較史の効用」（国際基督教大学アジア文化研究所公開講演，1995年1月26日），⑧「遣唐使の歴史的背景」（NHK英語放送「平成6年カヌー遣唐使」，1994年4月23日），「漢語洋書の日本への渡来」（シンポジウム「世界のなかの江戸・日本」，1994年10月24日，要旨：東洋学報76—3・4，154～155頁），「中国北の政治と南の経済」（週刊ダイヤモンド社「成長するアジア経済への日本の死角」，要旨：週刊ダイヤモンド82—42，1994年10月29日，44～45頁）。

関野 雄

⑧「燕迷の戯言——五十余年前の北京を想う」(中国——社会と文化 9, 252~267頁, 中国社会文化学会, 1994年6月)。

武田 幸男

③「三韓社会における辰王と臣智(上)」(朝鮮文化研究 2, 13~35頁, 東京大学文学部, 1995年3月), ⑦「『花郎世紀』の朝鮮古代世界——もうひとつの真偽論」(東京大学文学部第143回文化交流研究懇談会, 1995年3月15日)。

立川 武蔵

①『中論の思想』(法蔵館, 1994年6月), 『インド・ネパール——聖なるものへの旅』(人文書院, 1994年11月), ②『Five Hundred Buddhist Deities(五百尊図像集)』(国立民族学博物館, 1995年3月), ③「空思想における死と再生」(ユリイカ, 294~311頁, 1994年12月), ⑧「ブータンの図像——聖なるもののすがた」(アジアフォーラム「加速する天空の王国ブータンを知る」, 14~16頁, 1994年9月)。

C.A.ダニエルス

②『雲南の生活と技術』(慶友社, 1994年10月, 463頁), *Perspectives on Chinese Society Views from Japan* (Institute for the Study of Language and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of foreign Studies, 1994), ③「16~17世紀福建の竹紙製造技術——『天工開物』に詳述された製紙技術の時代考証」(*Journal of Asian and African Studies*, Nos. 48-49, Thirtieth Anniversary Commemorative Issue 2, 243~294頁, 1995年1月), “Environmental Degradation, Forest Protection and Ethno-History in Yunnan (I): The Uprising by Swidden Agriculturalists in 1821” (*Chinese Environmental History Newsletter*, Issue 1: 2., pp. 8~11, November, 1994), 「シブソンバンナー王国の製紙技術——西雙版納傣族の実地調査による再現」(就実女子大学史学論集 9, 47~104頁, 就実女子大学史学科, 1994年12月), ④「1993年の歴史学界・回顧と展望・中国・明清」(史学雑誌103-5, 220~227頁, 史学会, 1994年5月), ⑦「中国史における多民族性——雲南シブソンバンナー」(オリエント・クラブ, 1994年3月25日), 「試論清代台湾生番之帰化與漢族拓墾——以乾隆~道光年間為中心」(第6届中国海洋發展史研討会, 1995年3月31日, 台湾中央研究院中山人文社会科学研究所), ⑧末成道男編『中国文化人類学文献解題』(86~87頁, 97頁, 218~219頁, 東京大学出版会, 1995年2月)。

竺沙 雅章

- ②『アジアの歴史と文化 3 近世 I』(同朋舎出版, 1994年5月, 215頁), ③「陳垣と桑原隲蔵」(馮錦栄訳, 『陳垣教授誕生一百一十周年紀念文集』, 215~229頁, 暨南大学出版社, 1994年8月), ⑦「敦煌文書の世界——写経にみる仏教信仰」(大谷大学開放セミナー, 1994年5月14日, 5月28日, 6月11日, 6月25日, 7月9日)。

鶴見 尚弘

- ⑤「中国社会科学院歴史研究所収蔵整理『徽州千年契約文書』」(東洋学報76-1・2, 69~77頁, 東洋文庫, 1994年10月), ⑦「私の学問への道——アジアに生きる君たちへ」(1994年6月3日, 長野県立松本深志高等学校), 「日本における明史研究の動向」(1994年12月27日, 福建師範大学), 「日本における明清社会経済史研究の状況」(1994年12月31日, 厦門大学歴史系研究会)。

枋尾 武

- ①『玉造小町子壮衰書 小野小町物語』(岩波文庫, 1994年7月, 223頁), ③「日本に伝来した類書とその効用」(『和漢比較文学の周辺』<和漢比較文学叢書18>, 57~79頁, 汲古書院, 1994年)。

鳥海 靖

- ①『<NHK文化セミナー歴史に学ぶ>明六雑誌と近代日本』上・下(日本放送出版協会, 上: 1994年10月, 157頁, 下: 1995年1月, 174+5頁), ⑤“Japan in Modern History; Japanese School Textbooks, Junior High School——Introduction”, pp. 9~15(国際教育情報センター, 1994, Tokyo), ⑦「伊藤博文の憲法調査に関する新視点」(第19回中央史学会公開講演, 1994年7月2日), 「国際化の中の歴史教育」(福島県教育センター高等学校社会科教員研修会, 1994年9月29日), 「日本の歴史教科書におけるタイ, タイの歴史教科書における日本」(タイ国教育家との協議会, 国際教育情報センター, 1994年10月16日), 「明治国家の政治家たち——大久保利通と伊藤博文」(江戸東京自由大学, 江戸東京博物館, 1994年11月5日, 要旨『江戸東京自由大学』18~21頁, <財>江戸東京歴史財団, 1994年10月), ⑧「保古飛呂比——佐佐木高行日記」(『日本日記総攬』234~235頁, 新人物往来社, 1994年4月)。



中嶋 敏

③「宋進士登科題名録と同年小録」(汲古26, 33~46頁, 汲古書院, 1994年11月), 「南宋海将李寶事蹟」(東洋研究113, 1~17頁, 大東文化大学東洋研究所, 1994年11月)。

中見 立夫

③“Japanese Researchers’ Search for the Ch’ing-Manchu Sources in the Early Twentieth Century” (*Proceedings of the 35th International Altaistic Conference* / 『第三十五届世界阿爾泰学会會議記錄』, pp. 371~375, Taipei. Center for the Chinese Studies Materials, 1993年), 「貢桑諾爾布与“内蒙古的近代化”」(『清代的邊疆開闢——一九九一年國際清史學術討論會論文集』, 44~54頁, 重慶, 西南師範大学出版社, 1994年2月), 「文書史料にみえるトクトホの“実像”」(アジア・アフリカ言語文化研究48・49 [創立30周年記念号2], 371~386頁, アジア・アフリカ言語文化研究所, 1995年1月), ④「【研究会情報】シンポジウム・モンゴル史料の諸問題」(近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター6, 47~52頁, 1994年11月), 「ロシアの満洲学・清代中国東北史研究瞥見」(満族史研究通信4, 38~50頁, 1994年12月), ⑦“Монголведение в Японии” (Элиста : Калмыцкий институт общественных наук, 1994年4月13日), 「日清戦争研究の諸問題」[司会とパネラー] (「日清戦争と東アジア世界の変容」国際シンポジウム, 1994年11月26日), “The Mongol Delegation of 1911 and Russian Diplomats” (Greater Mongolia in the Twentieth Century, 1995年2月3日, Princeton University), “The Kiakhta Conference in 1914-15, Reexamined” (International Conference of Mongolists, 1995年2月21日, Jawaharlal Nehru University), ⑧「ロシアのアルヒーフを訪ねて」(近代日本研究通信22, 67頁, 1994年8月25日), 「文献目録——戦後のアジア論・アジア研究：内陸アジア」(溝口雄三・浜下武志・平石直昭・宮嶋博史編『アジアから考える [7]：世界像の形成』, 29~31頁, 東京大学出版会, 1994年12月), “Editor’s Note” (Ш. Бира, Монголын тvvх, соёл, тvvх бичлэгийн судалгаа, p. x., アジア・アフリカ言語文化研究所, 1994年3月)。

永積 洋子

①『海外交渉史』(法政大学通信教育テキスト)(法政大学通信教育部, 3+349頁, 1995年3月), ③「会社の貿易から個人の貿易へ——十八世紀日蘭貿易の変貌」(社会経済史学60-3, 1~28頁, 社会経済史学会, 1994年9月), 「将軍家治が注文した紅毛服飾」(日蘭学会会誌19-2, 67~76頁, 日蘭学会, 1995年3月)。



月), ⑦九州歴史大学講座 (1994年6月11日, 要旨: 九州歴史講座『九州歴史』6月号, 15~19頁), 「オランダ商館長の参府と江戸の蘭学」(シンポジウム「世界の中の江戸・日本」, 1994年10月25日, 要旨: 東洋学報76-3・4, 153~154頁), 「将軍のアルマナック (暦書) 注文と改暦」(洋学史学会, 1994年12月4日)。

西田 龍雄

② H. Kitamura, T. Nishida, Y. Nagano eds., *Current Issues in Sino-Tibetan Linguistics*, The Organizing Committees, The 26th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, Osaka, 1994, 1086 pp., ③ "A personal view of the Sino-Tibetan language family" (*Current Issues in Sino-Tibetan Linguistics*, 1994, Osaka, pp. 1-22), 「漢蔵語族管見」(民博通信65, 1994年7月, 2~25頁), ⑦ 「東南アジア諸国のことば・文化と中国のことば・文化」(第9回中国文化フォーラム, 大阪府日中友好協会主催, 1995年2月18日)。

原 實

③ "Pāsupata Studies II." (*Festschrift für Gerhard Oberhammer*, Wiener Zeitschrift für die Kunde Sudasiens, Band 38 (1994) pp. 323-335), "Devagarbha and Tathāgatagarbha" (*The Buddhist Forum* 3, Papers in honour and appreciation of Professor David Seyfort Ruegg's contribution to Indological, Buddhist and Tibetan Studies, School of Oriental and African Studies, University of London 1994, pp. 37-55), "Transfer of Merit in Hindu Literature and Religion" (*The Memoirs of the Toyo Bunko*, 52, 1994, pp. 103-135), ⑤ 「ハインツ・ベッヘルト編『歴史的仏陀の年代論』」(東洋学報76-3・4, 1995年3月, 059~066頁), 「ハインリッヒ・フォン・シュティーターティンクロン編『叙事詩とブラーナの文献目録』(1985迄)」(東洋学報76-3・4, 1995年3月, 066~070頁), 「海外学術情報」(法華文化研究20, 1994, 123~125頁), ⑦ 『仏誕生伝説の背景』(駒沢大学仏教学部春季学術講演, 1994年7月4日)。

古屋 昭弘

③ 「関於『拍掌知音』の成書時間問題」(中国語文1994-6, 452~453頁, 商務印書館, 1994年11月), 「白居易詩に見えるV教(O)C」(中国語学研究開篇12, 141~144頁, 好文出版, 1994年12月), ⑦ 「紀念司馬侃先生」(漢語史研究会, 1994年11月20日)。

本庄 比佐子

- ④「日本における中国ソビエト運動の研究」(近きに在りて25, 63~73頁, 汲古書院, 1994年5月), ⑥「蔡和森の思い出——郭紹棠の回想より・その2」(近代中国研究彙報17, 59~74頁, 東洋文庫, 1995年3月)。

三浦 徹

- ②「ヤクザが生きる町——ダマスクス」(佐藤次高他共著『イスラム社会のヤクザ——歴史を生きる仁侠と無頼』, 第三書館, 1994年7月), M. Haneda & T. Miura (eds.), *Islamic Urban Studies: Historical Review and Perspectives* (London, 1994, Oct., Kegan Paul International)。

御牧 克己

- ③“A Fourteenth Century Bon po Doxography, The Bon sgo gsal byed by Treston rgyal mtshan dpal: A Preliminary Report toward a Critical Edition” (*Tibetan Studies*, Proceedings of the 6th Seminar of the International Association of Tibetan Studies (Fagernes 1992), 2 Vols, The Institute for Comparative Research in Human Culture, Oslo, 1994, vol. 2, pp. 570-579.), (Doxographie tibétaine et classifications indiennes” (*Bouddhisme et cultures locales*, École française d’Extrême-Orient, Paris, 1994, pp. 115-136)。

宮崎 修多

- ③「怨軒忍草」(成城文藝147, 1~32頁, 成城大学文芸学部, 1994年7月), 「古文辞流行前における林家の故事題詠について」(近世文藝61, 1~18頁, 日本近世文学会, 1995年1月), 「『石城唱和集』寸断く上巻の部」(成城国文学論集23, 149~175頁, 成城大学大学院文学研究科, 1995年3月)。

護 雅夫

- ⑤「木村重信著『失われた文明を求めて』」(公明新聞, 1994年9月12日), 「ジョン・バーリン著, 安田喜憲・鶴見精二訳『森と文明』」(公明新聞, 1994年10月24日), ⑧「日本・トルコ友好の未来像」(ユーラシアの新しい架け橋を求めて——21世紀の日本とトルコ, 9~56頁, 日本トルコ文化協会, 1994年5月), 「外国語は少しでも油断すると忘却の彼方へ」(私の外国語上達法, リテレール・ブックス2, 28~33頁, メタローグ, 1994年5月), 「私のテュルク(トルコ)学事始め(1)」(トルコ文化研究7, 1~35頁, トルコ文化研究会, 1994年7月), 「死ぬまで直らぬ菟書癖と無精」(私の「本」整理術, リテレール・ブックス8, 28~33

頁, メタログ, 1994年8月), 「男の社交場——トルコのカフェ」(思い出のカフェ, 8~11頁, Bunkamura, 1994年9月), 「癌告知を契機に, 人生を濃密に生きる日々」(私の死生観, リテール・ブックス10, 36~39頁, メタログ, 1994年9月), 「旅の醍醐味は, 異国の人と話し, 理解しあうこと」(私の海外旅行術, リテール・ブックス12, 80~83頁, メタログ, 1994年10月), 「学生も教師もつまらぬことで多忙すぎる」(日本の大学どこがダメか, 144~147頁, メタログ, 1994年12月)。

#### 矢澤 利彦

①『東のお茶 西のお茶』(研文出版, 1995年2月, 215頁), ③「ロバート・モリソン」(月刊しにか1994-9, 102~8頁, 大修館書店), 「イエズス会士書簡集」(東京人86, 78~79頁, 1994年11月)。

#### 柳田 征司

③「母音優位・子音優位——東西両方言の違いは, いつ, どのようにして, なぜ生じたか」(国語学178, 29~37頁), 「日光山天海藏蔵『人天眼目聞書』と常州佐竹における抄物作成活動」(愛媛国文と教育26, 13~19頁), 「意志動詞の無意志的用法——あわせて使役表現のいわゆる許容・放任・随順用法について」(佐藤喜代治編『国語学論究5 中世語の研究』327~361頁, 明治書院, 1994年12月), 「モーラ方言アクセント(京阪式アクセント)・シラビーム性モーラ方言アクセント(東京式アクセント)・シラビーム方言アクセントの分離は, いつ, どのようにして, なぜ生じたか」(愛媛大学教育学部紀要第II部人文・社会科学27-2, 13~78頁)。

#### 山崎 元一

①『古代インドの王権と宗教——王とバラモン』(刀水書房, 1994年11月, 15+503+16頁), ②『歴史・思想・構造(カースト制度と被差別民, 第1巻)』(佐藤正哲と共編, 明石書店, 1994年10月, 444頁), ⑥「アンベードカル著『カーストの絶滅』(インド——解放の思想と文学, 第5巻)」(吉村玲子と共訳, 明石書店, 1994年6月, 307頁), ⑧「インド仏教徒との交流活動の紹介」(小冊子, 明石書店, 1994年6月, 19頁)。

#### 山根 幸夫

①『近代中国のなかの日本人』(研文出版, 1994年11月, 172+9頁), 『明清華北定期市の研究』(汲古書院, 1995年1月, 9+256+11頁), ②『中国史研究入

門・増補改訂版』(下)(山川出版社, 1995年2月, 630頁), 『中国史研究入門・中文訳』(田人隆他訳, 社会科学文献出版社, 1994年1月, 896頁), ③「明代の路程書について」(明代史研究22, 9～24頁, 明代史研究会, 1994年3月), 「明代」(山川出版社『中国史研究入門・増補改訂版』下, 551～562頁), 「現代」(同上, 615～621頁), ⑤「ロナルド・スレスキー『満洲の近代化——解説付参考書目』」(東洋学報76—1・2, 77～83頁, 東洋文庫, 1994年10月), 「徐勇『征服之夢——日本侵略戦略』」(東洋学報76—1・2, 83～90頁, 東洋文庫, 1994年10月), 「『欽欽新書』紹介」(朋友124, 44～45頁, 朋友書店, 1994年10月), 「季学原・章亦平主編『黄宗義研究資料索引』」(東洋学報76—3・4, 123～129頁, 東洋文庫, 1995年3月), 「鄭棟生『中日関係史研究論集』全4冊」(東洋学報76—3・4, 137～143頁, 東洋文庫, 1995年3月), 「湯志鈞『乘桴新獲——從戊戌到辛亥』」中訳文(史林1994—2, 74～78頁, 上海社会科学院歴史研究所史林編輯部, 1994年4月), ⑥「虞雲国く靜嘉堂收藏『裔夷謀夏録』について」(汲古26, 47～50頁, 古典研究会, 1994年11月), ⑧「第5屆明史国際學術討論会」(明代史研究22, 51～57頁, 明代史研究会, 1994年4月), 「1993年明代史論著目録」(明代史研究22, 75～80頁, 1994年4月), 「薛虹先生の思い出」(明代史研究22, 7～8頁, 1994年4月), 「土井正興君の思い出」(専修大学人文科学研究所月報158, 35～36頁, 専修大学人文科学研究所, 1994年3月), 「木村郁二郎『鄧中夏とその時代』推薦文」(汲古書院パンフレット, 1～2頁, 1994年8月), 「『中国文化情報』推薦文」(緑蔭書房パンフレット, 1994年7月), 「国立国会図書館アジア資料課が関西へ移転する」(東方167, 38～39頁, 東方書店, 1995年2月), 「『中国史研究入門』中文版序言」(『中国史研究入門』中文版・上, 1頁, 社会科学文献出版社, 1994年1月), 「編集後記」(汲古25, 83～84, 古典研究会, 1994年6月), 「編集後記」(汲古26, 68頁, 古典研究会, 1994年11月)。



# 東洋文庫チベット人招聘研究者一覧

(平成6年度末現在)

氏 名	役 職 等	招 聘 目 的	備 考
<b>S.36年度</b> ツェリン・ドルマ Tsering Droma (tshe ring drol ma) [S.36-S.42] ソナム・ギャムツォ Sonam Gyamtso (bsod nams rgya mtsho) [S.36-S.50] ケツン・サンポ Khetsun Sangpo (mkhas btsun bzang po) [S.36-S.45]	ラサ貴族夫人   サキヤ派ゴル 寺坐牀活仏   ニンマ派学僧	<b>【研究目的】</b> 《チベット人との協同によるチベットの言語・歴史・宗教・社会の総合的研究》 <b>【研究課題、事業内容】</b> ①現代チベット語辞典編集を目標とする記述的研究 ②古代・中世チベット史の重要史料の研究 ③ラマ教 新・旧両派の比較研究	ロックフェラー財団 補助金
<b>S.37年度</b> ツェリン・ドルマ ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ	(前出) ( 〃 ) ( 〃 )	(前出に同じ)	(前出)
<b>S.38年度</b> ツェリン・ドルマ ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ	(前出) ( 〃 ) ( 〃 )	(前出に同じ)	(前出)



<b>S.39年度</b> ツェリン・ドルマ Tsering Dorma (tshe ring drol ma)  ソナム・ギャムツォ Sonam Gyamtso (bsod nams rgya mtsho)  ケツン・サンポ Khetsun Sangpo (mkhas btsun bzang po)	ラサ貴族夫人  サキヤ派ゴル 寺坐牀活仏  ニンマ派学僧	<b>【研究課題、事業の内容】</b> 文部省補助金による「チベ ット歴史辞典の編纂」	文部省補助金 3人、年合計 ¥1,800,000
<b>S.40年度</b> ツェリン・ドルマ ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ	(前出) ( 〃 ) ( 〃 )	(前出に同じ)	文部省補助金 3人、年合計 ¥2,232,000
<b>S.41年度</b> ツェリン・ドルマ ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ	(前出) ( 〃 ) ( 〃 )	(前出に同じ) 「チベット歴史辞典の編 纂」の資料整理	文部省補助金 3人、年合計 ¥2,232,000
<b>S.42年度</b> ツェリン・ドルマ ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ	(前出) ( 〃 ) ( 〃 )	(前出に同じ) 「チベット歴史辞典の編 纂」補訂	文部省補助金 3人、年合計 ¥2,232,000
<b>S.43年度</b> ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ	(前出) (前出)	<b>【研究課題、事業内容】</b> 「チベットの歴史と文化の 系統」 古代チベット(7世紀以前、 7-10世紀)	文部省補助金 2人、年合計 ¥1,488,000

<b>S.44年度</b> ソナム・ギャムツォ Sonam Gyamtso (bsod nams rgya mtsho) ケツン・サンポ Khetsun Sangpo (mkhas btsun bzang po)	サキャ派ゴル 寺坐牀活仏  ニンマ派学僧	(前出に同じ)	文部省補助金 2人、年合計 ¥1,488,000
<b>S.45年度</b> ソナム・ギャムツォ ケツン・サンポ トゥプテン・ダタク Thupten Datak (thub bstan zla grags) [S.45-S.48]	(前出) ( 〃 ) セラメー学堂 ゲシェー	(前出に同じ)	文部省補助金 3人、年合計 ¥2,340,000
<b>S.46年度</b> ソナム・ギャムツォ トゥプテン・ダタク	(前出) ( 〃 )	<b>【研究課題、事業内容】</b> 「チベットの歴史と文化の 系統」 中世チベット(10-14世紀)	文部省補助金 2人、年合計 ¥1,740,000
<b>S.47年度</b> ソナム・ギャムツォ トゥプテン・ダタク	(前出) ( 〃 )	(前出に同じ)	文部省補助金 2人、年合計 ¥1,680,000
<b>S.48年度</b> ソナム・ギャムツォ トゥプテン・ダタク	(前出) ( 〃 )	<b>【研究課題、事業内容】</b> 「チベットの歴史と文化の 系統」 近世チベット(15-17世紀)	文部省補助金 2人、年合計 ¥1,020,000



<b>S.52年度</b> サムテン・カルメー Samten Karme (bsam gtan dkar mig) ケサン・ナムゲー Kesang Namgye (skal bzang rnam rgyal)	フランス高等 研究院 研究助手  ラサ・ニャロ ン大学 卒業生	<b>【研究課題、事業内容】</b> 「チベットの歴史と文化の 系統」 現代チベット (20世紀)	文部省補助金 2人、年合計 ￥2,100,000
<b>S.53年度</b> ツルティム・ケサン テンバ・ゲルツェン Tenpa Gyaltzen (bstan pa rgyal mtshan) [S.53.12- S.59.7]	ゲルク派学僧 ゲルク派ゴマ ン寺学僧 東洋文庫 招聘研究員	<b>【研究目的】</b> 《チベット人との協同によ るチベットの言語・歴 史・宗教・社会の総合的 研究》 <b>【研究課題】</b> 「チベット文語辞典の編 纂」 <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 スタイン蒐集チベット語文 献解題目録(第3冊)の共 編 Texts of Tibetan Folktales(1)の共編	文部省補助金 2人、年合計 ￥4,800,000 S.53年12月 来日
<b>S.54年度</b> ツルティム・ケサン テンバ・ゲルツェン	(前出) ( 〃 )	(研究目的、研究課題、前 出に同じ) <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 スタイン蒐集チベット語文 献解題目録(第4冊)の共 編	文部省補助金 2人、年合計 ￥2,640,000



<p><b>S.55年度</b>  テンパ・ゲルツェン  Tenpa Gyaltzen  (bstan pa rgyal  mtshan)</p>	<p>ゲルク派ゴマ  ン寺学僧  東洋文庫  招聘研究員</p>	<p>(研究目的、研究課題、前  出に同じ)  <b>【事業内容】</b>  チベット語文献の収集・整理    スタイン蒐集チベット語文  献解題目録(第5冊)の共  編  Texts of Tibetan  Folktales(2)の共編</p>	<p>文部省補助金  1人、年合計  ¥2,640,000</p>
<p><b>S.56年度</b>  テンパ・ゲルツェン</p>	<p>(前出)</p>	<p>(研究目的、研究課題、前  出に同じ)  <b>【事業内容】</b>  チベット語文献の収集・整理  スタイン蒐集チベット語文  献解題目録(第6冊)の共  編  西藏仏教宗義研究第3巻</p>	<p>文部省補助金  1人、年合計  ¥2,880,000</p>
<p><b>S.57年度</b>  テンパ・ゲルツェン</p>	<p>(前出)</p>	<p>(研究目的、研究課題、前  出に同じ)  <b>【事業内容】</b>  チベット語文献の収集・整理  スタイン蒐集チベット語文  献解題目録(第7冊)の共  編  Texts of Tibetan  Folktales(3)の共編</p>	<p>文部省補助金  1人、年合計  ¥2,880,000</p>

<p><b>S.58年度</b></p> <p>テンパ・ゲルツェン Tenpa Gyaltsen (bstan pa rgyal mtshan)</p>	<p>ゲルク派ゴマ ン寺学僧 東洋文庫 招聘研究員</p>	<p>(研究目的、研究課題、前 出に同じ)</p> <p>【事業内容】 チベット語文献の収集・整理 スタイン蒐集チベット語文 献解題目録(第8冊)の共 編 Texts of Tibetan Folktales(4)の共編</p>	<p>文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000</p>
<p><b>S.59年度</b></p> <p>テンパ・ゲルツェン ソナム・ チュンペール Sonam Choephel (bsod nams chos 'phel) [S.60.3-H.1.3]</p>	<p>(前出) 前チベット自 治区師範大 学チベット 語教授 東洋文庫 招聘研究員</p>	<p>(研究目的、研究課題、前 出に同じ)</p> <p>【事業内容】 チベット語文献の収集・整理 スタイン蒐集チベット語文 献解題目録(第9冊)の共 編 Texts of Tibetan Folktales(5)の共編</p>	<p>文部省補助金 2人、年合計 ¥2,880,000 (S.59.9. 帰国)</p>
<p><b>S.60年度</b></p> <p>ソナム・ チュンペール</p>	<p>(前出)</p>	<p>(研究目的、研究課題、前 出に同じ)</p> <p>【事業内容】 チベット語文献の収集・整理 スタイン蒐集チベット語文 献解題目録(第10冊)の共 編 西藏仏教宗義研究第4巻 (トウカン一切宗義「モン ゴル」の章)の指導</p>	<p>文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000</p>

<b>S.61年度</b> ソナム・ チュンペール Sonam Choephel (bsod nams chos 'phel)	前チベット自治区師範大学チベット語教授	(研究目的、研究課題、前出に同じ) <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 スタイン蒐集チベット語文献解題目録(第11冊)の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000
<b>S.62年度</b> ソナム・ チュンペール	(前出)	(研究目的、研究課題、前出に同じ) <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 Texts of Tibetan Folktales (6) の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000
<b>S.63年度</b> ソナム・ チュンペール	(前出)	(研究目的、研究課題、前出に同じ) <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries Vol.1 Buddist Terminology の共編 サキヤ・バンディンタ著「論理学総論」テキスト・邦訳・注釈 第1巻の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000
<b>H.1年度</b> テンパ・ゲルツェン Tenpa Gyaltzen (bstan pa rgyal mtshan) [H.1.以降～]	ゲルク派ゴマ ン寺学僧 東洋文庫 招聘研究員	(研究目的、研究課題、前出に同じ) <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries Vol.2の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000

		チベット論理学研究第2巻 の共編 Texts of Tibetan Folktales(7)の共編	
<b>H. 2 年度</b> テンパ・ゲルツェン Tenpa Gyaltsen (bstan pa rgyal mtshan)	ゲルク派ゴマ ン寺学堂長 東洋文庫 招聘研究員	(研究目的、研究課題、前 出に同じ) 【事業内容】 チベット語文献の収集・整理 チベット論理学研究第3巻 の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000
<b>H. 3 年度</b> テンパ・ゲルツェン	(前出)	(研究目的、研究課題、前 出に同じ) 【事業内容】 チベット語文献の収集・整理 チベット論理学研究第4巻 の共編 東洋文庫所蔵チベット語 刊本目録索引の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000
<b>H. 4 年度</b> テンパ・ゲルツェン	(前出)	(研究目的、研究課題、前 出に同じ) 【事業内容】 チベット語文献の収集・整理 チベット論理学研究第5巻 の共編 西藏宗義研究第6巻 (チヨナン派の章)の共編 2巻本訳語釈訳註の共編	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000
<b>H. 5 年度</b> テンパ・ゲルツェン	(前出)	(研究目的、研究課題、前 出に同じ) 【事業内容】 チベット語文献の収集・整理	文部省補助金 1人、年合計 ¥2,880,000



		チベット論理学研究第6巻 の共編 トゥカン一切宗義校訂テキ スト・索引の編集校訂	
<b>H. 6 年度</b> テンパ・ゲルツェン Tenpa Gyaltsen (bstan pa rgyal mtshan)	ゲルク派ゴマ ン寺学堂長 東洋文庫 招聘研究員	(研究目的、研究課題、前 出に同じ) <b>【事業内容】</b> チベット語文献の収集・整理 トゥカン一切宗義校訂第7 巻(ゲルク派章)の共編 東洋文庫所蔵チベット語 活字本目録の共編	文部省補助金 1人、年合計 ￥2,880,000

# 東洋文庫国内研究者等受入略表

(平成6年度末現在)

研究者氏名	受入年次現職	研 究 課 題	備 考
<b>S.39年度</b> 斯波義信	熊本大学助教授	宋代以降中国農村社会経済語彙の研究	S.39年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.40年度</b> 岩見 宏	神戸大学助教授	明清時代の社会経済語彙の研究	S.40年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.41年度</b> 谷口規矩雄	神戸大学 文学部助手	明清時代の社会経済語彙の研究	S.41.9～42.2 内地留学研究員
<b>S.42年度</b> 細谷良夫 竺沙雅章	一関工業専門 高等学校助教授 京都大学人文科学 研究所助教授	清朝社会経済史 敦煌文献に基づく中国文化の総合的研究	S.42.9～43.2 内地留学研究員 S.42年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.43年度</b> 池田 温	北海道大学助教授	敦煌文献に基づく中国文化の総合的研究	S.43年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.44年度</b> 大谷森繁	天理大学教授	東洋文庫所蔵朝鮮古文獻による史学・文学・語学の総合的研究	S.44年度1年間 日本学術振興会 流動研究員

<b>S.45年度</b>			
久村 因	名古屋大学教授	中国歴代地理書の総合的研究	S.45年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
鶴見 尚弘	山梨県立女子 短期大学助教授	宋代以降中国農民社会経済史の研究	S.45年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.46年度</b>			
重田 徳	大阪市立大学教授	郷紳の研究	S.46年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.47年度</b>			
草野 靖	熊本大学助教授	宋代政治経済史の体系的 研究	S.47年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
酒井 憲二	山梨県立女子 短期大学助教授	本邦における漢字、なか んずく異体字の歴史的 研究	S.47年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.48年度</b>			
菊池 貴晴	福島大学教授	中国革命における第三勢 力の研究	S.48年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
柳田 征司	愛媛大学助教授	室町時代仮名抄の国語的 研究、特に原典ならび に中国側注釈書との関 係からみた	S.48年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.49年度</b>			
大島 正二	北海道大学助教授	敦煌文書中の音韻資料に よる唐代音韻の総合的 研究	S.49年度1年間 日本学術振興会 流動研究員

<b>S.50年度</b> 佐藤道郎	広島大学助教授	チベット仏教研究—特に 諸宗派の教学を中心と して—	S.50年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.51年度</b> 森正夫	名古屋大学助教授	明清期地主制の総合的 研究	S.51年度下半期 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.52年度</b> 濱島敦俊	北海道大学助教授	明清時代、地主—佃戸関 係の総合的研究	S.52年度上半期 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.53年度</b> 川勝守 (賢亮)	九州大学助教授	明清時代、地主制構造の 総合的研究	S.53年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
小島幸枝	東海学園女子 短期大学助教授	初期日本ヤソ会板におけ る翻訳の研究—特にド チリナ=キリシタンを 中心として—	S.53年度上半期 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.54年度</b> 越智重明	九州大学教授	中国・六朝社会史の研究	S.54年度9ヶ月間 日本学術振興会 流動研究員
藤本幸夫	富山大学助教授	日本現存朝鮮古刊本の調 査とその書誌学的・語 学的研究	S.54年度下半期 文部省内地研究員
前田恵美子	金沢大学助手	両大戦間の中国経済研究	S.54年度下半期、同 年10月14日死去の ため辞退 文部省内地研究員



<b>S.55年度</b>			
小山皓一郎	北海道大学助教授	初期オスマン朝国家の 国制	S.55年4月より 10ヶ月間 日本学術振興会 流動研究員
柳田 征 司	(前出)	仮名抄の成立についての 研究—特に「非仮名抄」 と「書き入れ仮名抄」 とから見た—	S.55年4月より 10ヶ月間 日本学術振興会 流動研究員
高橋 孝 助	宮城教育大学 助教授	中国近代地主制の研究	S.55年度下半期 文部省内地研究員
<b>S.56年度</b>			
草 野 靖	熊本大学教授	宋代以降民国初期にいた る租佃関係の展開	S.56年度1年間 日本学術振興会 流動研究員
辻 星 児	岡山大学専任講師	中期朝鮮語から現代朝鮮 語への変遷の言語学的 研究	S.56年度上半期間 日本学術振興会 流動研究員
<b>S.57年度</b>			
相 田 洋	福岡教育大学 助教授	明代白蓮教史の研究	S.57年度下半期 文部省内地研究員
<b>S.58年度</b>			
佐 藤 智 水	岡山大学助教授	中国六朝時代郷村社会構 造の研究	S.58.9.1～ S.59.2.29 日本学術振興会 流動研究員
石 塚 晴 通	北海道大学助教授	訓点資料と抄物の聯関	S.58.8.1～ S.59.1.31 日本学術振興会 流動研究員
久保田文次	日本女子大学教授	中国近代と中国革命	S.58年度1年間 私学国内研修員

坂 野 良 吉	埼玉大学助教授	1920年代中国における政治変革の社会経済的基礎研究	S.58.9.1～ S.59.2.29 文部省内地研究員
倉 橋 正 直	愛知県立女子短期大学専任講師	中国の阿片モルヒネ政策及びシベリア・中国東北における日本人売春婦	S.58.10.1～ S.59.3.31 愛知県学外研究員
S.59年度 北 村 秀 人	大阪市立大学教授	高麗・李朝時代の地域社会と地方行政	S.59.6.1～11.30 日本学術振興会 流動研究員
S.60年度 多 田 狷 介	日本女子大学教授	評論から見た2～4世紀中国の人と社会	S.60年度1年間 国内研修教員
S.61年度	—————	—————	—————
S.62年度 上 山 大 峻	龍谷大学教授	東洋文庫所蔵の敦煌写本資料及びチベット資料の調査・研究	S.62年度1年間 私学研修教員
内 山 雅 生	金沢大学助教授	解放前中国農村社会構造の社会経済史研究	S.62年度下半期間 文部省内地研究員
S.63年度	—————	—————	—————
H.1年度 鑑 淳	金沢大学 文学部教授	特殊語形のサンスクリット語彙の研究	H.1年度下半期間 (H.1.9.1～ H.2.2.28) 文部省内地研究員
H.2年度 上村希美雄	熊本短大助教授	辛亥革命に協力した日本人志士の調査と研究	H.2年度下半期間 (9月以降) 私学研修教員

<b>H. 3 年度</b>			
白 井 駿	國學院大学 法学部教授	古代インドの刑事法学	H. 3 年度 1 年間 國學院大学の依頼
佐々木 揚	佐賀大学 教育学部助教授	近代中国における日本論 の史的展開	H. 3 年度下半期間 文部省内地研究員
<b>H. 4 年度</b>			
山 崎 元 一	國學院大学 文学部教授	古代インド史研究のため の資料調査	H. 4 年度 1 年間 國學院大学の依頼
茂 澤 方 尚	駒澤大学 文学部講師	韓非子版本の研究—四部 叢刊本について—	H. 4 年度 1 年間 駒澤大学の依頼
<b>H. 5 年度</b>		—————	—————
<b>H. 6 年度</b>			
大 櫛 敦 弘	高知大学助教授	中国出土文字資料の研究	H. 6.8~H. 7.3 文部省内地研究員

# 東洋文庫奨励研究員略表

(文部省補助金研究者養成費年度別使用一覽)

(平成6年度末現在)

研究者氏名 (出身大学)	研究課題	現職	補助金年 額(千円)	備考
<b>S.31年度</b>			480	
永 積 昭 (東京大学)	近世東南アジア貿易史の研究—オランダ東印度会社の活動を中心として—	(東京大学 教授)		(昭和62.7.10. 逝去)
高 畠 稔 (東京大学)	インド土地制度史の研究—イギリスの統治下における—	北海道大学 教授		
斯 波 義 信 (東京大学)	中国社会経済史の研究—特に宋代の商業史的研究を中心として—	国際基督教 大学教授		前東京大学教授 元大阪大学教授
本 田 實 信 (東京大学)	蒙古民族史の研究	名古屋商科 大学教授		京都大学 名誉教授
山 根 幸 夫 (東京大学)	15世紀以降の中国における 郷村統治の研究	東洋文庫 研究員		東京女子大学 名誉教授
松 村 潤 (東京大学)	清朝初期史—明・清・蒙古・ 満洲・朝鮮の文献史料の 比較検討—	東洋文庫 研究員		日本大学 名誉教授
山 口 瑞 鳳 (東京大学)	梵藏文文法論	東洋文庫 研究員		東京大学 名誉教授 前名古屋大学 教授
<b>S.32年度</b>			480	
永 積 昭	(前掲出)	(前掲出)		
高 畠 稔	( " )	( " )		
斯 波 義 信	( " )	( " )		
池 田 温 (東京大学)	唐代社会経済史研究	創価大学 教授		東京大学 名誉教授

山根幸夫	(前掲出)	(前掲出)		
松村潤	( 〃 )	( 〃 )		
山口瑞鳳	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.33年度</b>			480	
永積昭	(前掲出)	(前掲出)		
高畠稔	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.34年度</b>			480	
永積昭	(前掲出)	(前掲出)		
高畠稔	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.35年度</b>			480	
生田滋 (東京大学)	近世インドネシア史研究	大東文化 大学教授		
佐々木正哉 (東京大学)	近世中国排外運動の研究			明治大学 名誉教授
<b>S.36年度</b>			480	
佐々木正哉	(前掲出)	(前掲出)		
金子良太 (大正大学)	サキヤ派史の研究	(東洋文庫 専任研究員)		(昭和54.3.15. 逝去)
<b>S.37年度</b>			480	
金子良太	(前掲出)	(前掲出)		
酒井良樹 (東京教育 大学)	ベトナムの国際的位置			
<b>S.38年度</b>			480	
金子良太	(前掲出)	(前掲出)		
武田幸男 (東京大学)	朝鮮中世史研究	東京大学 教授		
<b>S.39年度</b>			480	



川崎信定 (東京大学)	チベットにおける仏教思想 の展開—唯識思想を中心 とした跡づけ—	筑波大学 教授		期間： 4.1.-10.21.
山口瑞鳳	チベット歴史辞典の編集及 びチベット暦—第6代ダ ライラマ伝説の研究—	(前掲出)		期間： 11.1.-3.31.
山崎元一 (東京大学)	インド古代史の研究	國学院大学 教授		
<b>S.40年度</b>			480	
山口瑞鳳	(前掲出)	(前掲出)		
山崎元一	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.41年度</b>			480	
山口瑞鳳	(前掲出)	(前掲出)		
山崎元一	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.42年度</b>			600	
後藤明 (東京大学)	マホメット時代のアラブ 社会の考察	東京大学 教授	600	前山形大学 助教授
西義郎 (国際基督 教大学)	ビルマ語の研究	神戸市外国 語大学教授		
<b>S.43年度</b>			600	
後藤明	(前掲出)	(前掲出)		
西義郎	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.44年度</b>			600	
後藤明	(前掲出)	(前掲出)		
金子良太	西域出土チベット文献の 研究	( 〃 )		
<b>S.45年度</b>			1,080	

長 正 統 (名古屋 大学)	李朝後期の日鮮貿易史	(九州大学 教授)	1,080	(昭和62.10.25. 逝去)
川 崎 信 定	チベット仏教古派資料の 研究	(前掲出)		
永 田 雄 三 (慶応大学)	トルコの近代化に関する 社会経済史的研究	東京外国語 大学アジ ア・アフ リカ言語 文化研究 所教授		
<b>S.46年度</b>			1,080	
長 正 統	(前掲出)	(前掲出)		
川 崎 信 定	( 〃 )	( 〃 )		
渡 辺 紘 良 (東京教育 大学)	宋代地主制の研究	独協医科 大学教授		
<b>S.47年度</b>			1,218	
長 正 統	(前掲出)	(前掲出)		
川 崎 信 定	( 〃 )	( 〃 )		
二 瓶 幸 子 (日本女子 大学)	アティーシャ著「菩提前燈 論」の研究	日本学士院 事務官		期間： 4.1.-6.30.
土 肥 祐 子 (日本女子 大学)	宋代における市舶制度の 展開			期間： 10.1.-3.31.
<b>S.48年度</b>			1,620	
菅 野 裕 臣 (東京教育 大学)	朝鮮語の歴史的研究	東京外国語 大学教授		前九州大学助手
松 本 明 (中央大学)	唐代選挙制度の研究	東洋文庫専 任研究員		

花 田 宇 秋 (中央大学)	イスラーム第二次内乱の 研究	明治学院 大学教授		
<b>S.49年度</b>			1,620	
菅 野 裕 臣	(前掲出)	(前掲出)		
松 本 明	( 〃 )	( 〃 )		
花 田 宇 秋	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.50年度</b>			2,700	
松 本 明	(前掲出)	(前掲出)		
花 田 宇 秋	( 〃 )	( 〃 )		
長 野 泰 彦 (東京大学)	ボン教の伝承に関する文献 的研究	国立民族博 物館教授		前東京大学助手
<b>S.51年度</b>			3,024	
長 野 泰 彦	(前掲出)	(前掲出)		
古 垣 光 一 (中央大学)	宋代官僚制の研究	国士館大学 講師		
志 茂 碩 敏 (東京大学)	Gha Zan Khanの諸改革	東洋文庫 研究員		
<b>S.52年度</b>			3,240	
長 野 泰 彦	(前掲出)	(前掲出)		期間： 4.1.-9.15.
原 田 覚 (東京大学)	吐蕃仏教の研究	国士館大学 教授		期間： 9.16.-3.31.
古 垣 光 一	(前掲出)	(前掲出)		
佐 藤 智 水 (東京大学)	南北朝・隋・唐初における 邑義について	岡山大学 教授		期間： 4.1.-11.30.
浜 下 武 志 (東京大学)	中国近代経済史研究 —金融問題を中心として—	東京大学 教授		期間： 12.1.-3.31. 前一橋大学 助教授
<b>S.53年度</b>			3,492	

原 田 覚	(前掲出)	(前掲出)		
浜 下 武 志	( 〃 )	( 〃 )		
蓓 勇 造 (東京大学)	古代南アラビア史のクロノ ロジー研究	東京大学 教授		前東京工業大学 助教授
<b>S.54年度</b>			3,636	
原 田 覚	(前掲出)	(前掲出)		
並 木 頼 寿 (東京大学)	捻軍史を中心とする清末 華北農村社会の研究	東京大学 助教授		前東海大学 助教授
新 村 容 子 (東京大学)	清末地主制の研究	就実女子大 学助教授		前岡山大学講師
<b>S.55年度</b>			3,708	
原 田 覚	(前掲出)	(前掲出)		
並 木 頼 寿	( 〃 )	( 〃 )		
新 村 容 子	( 〃 )	( 〃 )		
<b>S.56年度</b>			3,852	
神 矢 法 子 (九州大学)	漢唐における家礼の規範的 展開と礼俗			
山 内 昌 之 (北海道 大学)	トルコの近代社会と イスラム	東京大学 教授		
山 名 弘 史 (東京大学)	清代地主制の研究	法政大学 教授		前東京大学助手
<b>S.57年度</b>			3,960	
臼井佐知子 (東京大学)	清代における地方財政と権 力関係及び市場構造問題	大東文化 大学教授		
古 屋 昭 弘 (都立大学)	中国語の音韻史的研究 —主として六朝・隋唐の 字音を中心に—	早稲田大学 教授		前都立大学講師
八尾師 誠 (北海道 大学)	20世紀初頭のイランにおけ る立憲革命	東京外国語 大学助教授		

<b>S.58年度</b>			3,960	
白井佐知子	(前掲出)	(前掲出)		
八尾師 誠	( 〃 )	( 〃 )		
渡 辺 修 (立教大学)	清代政治史研究—特に満蒙 交渉の推移を中心に—	日本大学 講師		
<b>S.59年度</b>			4,032	
渡 辺 修	(前掲出)	(前掲出)		
大 井 剛 (東京大学)	隋唐時代における東アジア 国際関係史研究	ユネスコ・ アジア文 化センタ ー外事 室長		前東京大学助手
今 沢 紀 子 (東京大学)	エジプトの対西欧従属過程 に関する研究	法政大学 講師		
<b>S.60年度</b>			4,032	
今 沢 紀 子	(前掲出)	(前掲出)		
石 橋 崇 雄 (東京大学)	清朝八旗制度及び 内務府研究	国士館大学 助教授		
金 沢 篤 (東京大学)	中世ヒンドゥー教史 —前・後ミーマーンサー 哲学文献の研究—	気象大学校 助教授		前駒澤大学講師
<b>S.61年度</b>			4,032	
金 沢 篤	(前掲出)	(前掲出)		
小 牧 昌 平 (東京大学)	18・19世紀のイランにおけ る国家統治機構の変遷と 展望	上智大学 助教授		
片 山 章 雄 (上智大学)	古代トルコ民族史の研究	東海大学 助教授		前清泉女子大学 講師
<b>S.62年度</b>			4,032	
片 山 章 雄	(前掲出)	(前掲出)		



飯 尾 秀 幸 (東京大学)	中国古代の国家支配と郷里 における社会的関係との 関連	東京大学 助手		
石 川 重 雄 (立正大学)	宋代仏教社会経済史の研究	立正大学 講師		
<b>S. 63年度</b>			4,032	
石 川 重 雄	(前掲出)	(前掲出)		
宇 野 伸 浩 (早稲田 大学)	モンゴル帝国および元朝の オルド	早稲田大学 講師		
新 免 康 (東京大学)	20世紀前半期の東トルキス タン史—トルコ系ムスリ ムの民族主義・分離主義 を中心として—	東京外国語 大学アジア・アフ リカ文化 言語研究 所専任講 師		前東京外大助手
<b>H. 元年度</b>			4,032	
宇 野 伸 浩	(前掲出)	(前掲出)		
新 免 康	(    ”    )	(    ”    )		
吉 岡 司 郎 (東京大学)	“Mahabharata”に見える 古典インドの道德・倫理 思想の研究	東方学院 研究員		
<b>H. 2 年度</b>			4,032	
吉 岡 司 郎	(前掲出)	(前掲出)		
兼田信一郎 (上智大学)	中国 4 ～ 6 世紀江南社会の に聚落に関する基礎的研 究	独協学園 教諭		
久保田宏次 (明治大学)	中国社会の社会集団・塙壁 の研究	暁星学園 教諭		
<b>H. 3 年度</b>			4,032	
久保田宏次	(前掲出)	(前掲出)		

荒川正晴 (早稲田大学)	唐代中央アジア地域の都市 と交通の研究	早稲田大学 講師		
松田俊道 (中央大学)	セント・カトリヌ文書に もとづくズインミーの 研究	中央大学 専任講師		前駒澤大学講師
<b>H. 4 年度</b>			4,032	
荒川正晴	(前掲出)	(前掲出)		
松田俊道	( 〃 )	( 〃 )		
張士陽 (東京大学)	18・19世紀台湾における 地域社会の形成	立教大学 講師		
<b>H. 5 年度</b>			4,032	
張士陽	(前掲出)	(前掲出)		
西江清高 (上智大学)	中国先秦時代の考古学的 研究	明治大学 講師		
水野善文 (東京大学)	中世ヒンディー文学の研究	拓殖大学 講師		
<b>H. 6 年度</b>			4,032	
西江清高	(前掲出)	(前掲出)		
水野善文	( 〃 )	( 〃 )		
小松香織 (東京大学)	近代オスマン海軍史研究	筑波大学 専任講師		(就職のため 1ヶ年間で辞 退)

文部省国庫補助金事業の〔研究者養成〕費の目的；

東洋学の各種分野の専門研究者を養成するため、特に未開拓分野に重点を置きつつ、大学院博士課程修了程度の人材に引き続き2年間、東洋文庫奨励研究員として研究の機会を与える。

# 日本学術振興会奨励研究員・特別研究員受入略表

(平成6年度末現在)

研究者氏名 (出身大学)	研 究 課 題	現 職	備 考
<b>S.42年度</b> 丹 喬 二 (東京教育 大学)	宋代農村史の研究	日大文理学部教授	
<b>S.44年度</b>	—————	—————	(採用者なし)
<b>S.45年度</b> 渡 辺 紘 良 (東京教育 大学)	中国中世社会構造の研究—特に宋代における農民逃亡に関連して—	獨協医科大学教授	
<b>S.46年度</b>	—————	—————	(採用者なし)
<b>S.47年度</b> 小山皓一郎 (東京大学)	オスマン朝初期の年代記とくにアシク・パシャ・サーデ・タリヒの研究	北海道大学文学部教授	
<b>S.48年度</b> 志 茂 碩 敏 (東京大学)	Ghāzān Khān の諸改革	東洋文庫研究員	
<b>S.49年度</b>	—————	—————	(採用者なし)
<b>S.50年度</b> 志 茂 碩 敏 志 部 昭 平 (東京教育 大学)	(前出) 朝鮮語の歴史的研究	(前出) (千葉大学文学部教授)	(S.50年7月、東京教育大学文学部助手に就任のため辞退) (平成4年8月25日逝去)

S.51年度 佐藤智水 (東京大学)	南北朝・隋・唐における 邑義について	岡山大学文学部教授	
S.52年度 蒨勇造 (東京大学)	古代南アラビア史のク ロノロジーの研究	東京大学文学部教授	
S.53年度	—————	—————	(採用者なし)
S.54年度 糟谷憲一 (東京大学)	近代朝鮮のブルジョワ 的改革運動と独立協会	新潟大学人文学部教授	S.54年度1年間、(同 年10月31日新潟大学 に辞職のため辞退)
S.55年度 吉野 誠 (東京大学)	李朝末期開港後の社会 的変動に関する研究	東海大学文学部教授	S.55年度1年間
S.56年度 森安孝夫 (東京大学)	ウイグル民族史及びウ イグル語文献の研究	大阪大学文学部教授	S.56年度1年間
S.57年度 ～59年度	—————	—————	(採用者なし)
S.60年度 片山章雄 (上智大学)	古代トルコ民族史の 研究	東海大学文学部助教授	S.60年度1年間
この時期以降、日本学術振興会により奨励研究員は特別研究員に変更された			
S.61年度 ～62年度	—————	—————	(採用者なし)
S.63年度 大櫛敦弘 (東京大学)	中国社会における生産 と流通	高知大学人文学部 助教授	S.63年度以降2年 間 (H.元年4月高 知大学専任講師に 就職のため辞退)

<b>H. 1 年度</b>	—————	—————	(採用者なし)
<b>H. 2 年度</b> 太田 敬子 (東京大学)	諸民族の侵入とイスラ ム化の進行に伴う北 シリアの社会的構造 の変化の文献的研究	清泉女子大学講師	H. 2 年度以降 2 年間
山本 進 (名古屋 大学)	社会的分業及び経済政 策から見た清代中国 の市場構造研究	北九州大学経済学部 専任講師	H. 2 年度 2 年間 (H. 3 年度北九州 大学に就職のため 辞退)
<b>H. 3 年度</b> 太田 敬子	(前出)	(前出)	(前出)
<b>H. 4 年度</b> 大 稔 哲 也 (東京大学)	中世イスラム社会にお ける聖者崇拜・聖墓 参詣に関する歴史学 的研究	山形大学教養部 専任講師	H. 4 年度以降 2 年間
<b>H. 5 年度</b> 大 稔 哲 也 山内民博 (東京大学)	(前出) 朝鮮李朝後期在地両班 の旌表運動と国家	(前出) 九州大学文学部助手	(前出) H. 5 年度 2 年間 (H. 6 年度九州大 学に就職のため辞 退)
<b>H. 6 年度</b> 金 丸 裕 一 (都立大学)	「統制」期中国経済の 歴史的展望	立命館大学経済学部 助教授	H. 6 年度 2 年間 (H. 7 年度立命館 大学に就職のため 辞退)



### III 業 務 報 告

#### 1. 総 務 報 告

##### i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

##### 理 事 会

- 第291回 開催日 平成6年6月6日（月曜日）  
出席者 北村 甫, 石井米雄, 市古宙三, 岩崎寛彌, 河野六郎, 佐藤次高  
ス波義信, 田中正俊, 林健太郎, 東陽太郎  
委任状 木田 宏, 中村俊男, 護 雅夫, 山本達郎
- 第292回 開催日 平成6年6月6日（月曜日）  
出席者 北村 甫, 石井米雄, 市古宙三, 岩崎寛彌, 河野六郎, 佐藤次高  
ス波義信, 田中正俊, 林健太郎, 東陽太郎  
委任状 木田 宏, 中村俊男, 護 雅夫, 山本達郎
- 第293回 開催日 平成6年12月6日（火曜日）  
出席者 北村 甫, 石井米雄, 河野六郎, 佐藤次高, 山本達郎, 東陽太郎  
委任状 市古宙三, 木田 宏, 田中正俊, 中村俊男, 中根千枝, 林健太郎  
護 雅夫

##### 評 議 員 会

- 第133回 開催日 平成6年6月6日（月曜日）  
出席者 神田信夫, 亀井 孝, 小山宙丸, 関野 雄, 中嶋 敏, 前田充明  
委任状 井村裕夫, 岡野 澄, 田部文一郎, 鳥居泰彦, 中田乙一  
長谷川周重, 日比野丈夫, 吉川弘之

## ii 東洋学連絡委員会の開催

前 期 開催日 平成 6 年 5 月 23 日（月曜日）

出席者 北村 甫（委員長），市古宙三，入矢義高，尾崎 康，佐藤 長  
斯波義信，竺沙雅章，西田龍雄，本田實信，山本達郎

議 題 1.平成 5 年度財団法人東洋文庫事業報告について  
2.平成 6 年度財団法人東洋文庫事業計画について  
3.その他

後 期 開催日 平成 6 年 11 月 30 日（水曜日）

出席者 北村 甫（委員長），入矢義高，尾崎 康，佐藤 長，竺沙雅章  
中嶋 敏，長尾雅人

議 題 1.平成 6 年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2.平成 7 年度財団法人東洋文庫事業計画(案)について  
3.その他

## 2. 人 事 報 告

### i 役 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
6 . 6 . 6	理 事	中 根 千 枝	就 任	
6 . 11 . 5	評 議 員	小 山 宙 丸	退 任	
〃	〃	奥 島 孝 康	就 任	
7 . 1 . 7	〃	亀 井 孝	逝 去	

## ii 委員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
7. 3. 31	東洋学連絡委員会委員	市 古 宙 三	退 任	
〃	〃	長 尾 雅 人	〃	

## iii 職員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
6. 4. 1	文 庫 長	吉 久 明 宏	就 任	
〃	文庫長補佐	小 山 勲	〃	
〃	研究員（奨励）	小 松 香 織	委 嘱	
〃	研究員（兼任）	田 村 晃 一	〃	
〃	〃	林 佳世子	〃	
6. 6. 30	司 書	蓮 沼 龍 子	退 職	
6. 7. 1	〃	辺 見 由起子	就 職	
6. 10. 1	研究員（兼任）	西 田 龍 雄	委 嘱	
〃	〃	梅 田 博 之	〃	
〃	〃	大 江 孝 男	〃	
〃	〃	永 積 洋 子	〃	
7. 1. 1	研究員（専任）	福 田 洋 一	就 職	
7. 3. 31	研究員（奨励）	小 松 香 織	退 任	就職のため
〃	〃	西 江 清 高	〃	2ヶ年間終了
〃	〃	水 野 善 文	〃	〃

## IV 役 職 員 名 簿

平成7年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
理 事	石 井 米 雄	上智大学教授 京都大学名誉教授
〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	木 田 宏	財団法人第二国立劇場運営財団理事長
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	財団法人民族学振興会理事長 東京大学名誉教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健太郎	東京大学名誉教授
〃	護 雅 夫	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	東 陽太郎	財団法人東洋文庫総務部長
監 事	池 原 正 道	日本コムシス株式会社監査役
〃	白 石 元 良	三菱金曜会事務局長

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	井 村 裕 夫	京都大学長
〃	岡 野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア 文化研究センター顧問
〃	奥 島 孝 康	早稲田大学総長
〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
〃	関 野 雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田 部 文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	鳥 居 泰 彦	慶應義塾長
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	中 田 乙 一	三菱地所株式会社相談役
〃	長谷川 周 重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前 田 充 明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア 文化研究センター顧問
〃	吉 川 弘 之	東京大学長



## 2. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長 麗澤大学教授
委 員	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐 藤 長	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	本 田 實 信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

## 3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
J. ジェルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
I. ペテック	ローマ大学教授

# 4. 職 員

(平成7年3月31日現在)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	佐 藤 次 高	東京大学教授
	研究員(兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
	〃	池 田 温	創価大学教授
	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	〃	石 井 米 雄	上智大学教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
	〃	石 橋 崇 雄	国士館大学助教授
	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	上 野 英 二	成城大学助教授
	〃	宇都木 章	青山学院大学名誉教授
	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
	〃	梅 村 坦	中央大学教授
	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
	〃	越 智 重 明	九州大学名誉教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
	〃	風 間 喜代三	法政大学教授
	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
	〃	加 藤 直 人	日本大学助教授
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
	〃	北 村 甫	麗澤大学教授
	〃	草 野 靖	福岡大学教授
	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所助教授
	〃	小 松 久 男	東京外国語大学助教授

研究部	〃	河野六郎	東京教育大学名誉教授
	〃	後藤明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後藤均平	立教大学名誉教授
	〃	佐伯富	京都大学名誉教授
	〃	佐竹昭広	国文学研究資料館々長
	〃	酒井憲二	調布学園女子短期大学教授
	〃	滋賀秀三	東京大学名誉教授
	〃	薮勇造	東京大学教授
	〃	斯波義信	国際基督教大学教授
	〃	志茂碩敏	国立国会図書館支部東洋文庫 司書
	〃	清水宏祐	九州大学教授
	〃	杉山正明	京都大学助教授
	〃	鈴木立子	愛知大学助教授
	〃	関野雄	東京大学名誉教授
	〃	田中時彦	東海大学教授
	〃	田中正俊	東京大学名誉教授
	〃	武田幸男	東京大学教授
	〃	立川武蔵	国立民族学博物館教授
	〃	田村晃一	青山学院大学教授
	〃	千葉熈	桐朋学園大学理事長
	〃	竺沙雅章	大谷大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	枳尾武	成城大学教授
	〃	土肥義和	國学院大学教授
	〃	鳥海靖	中央大学教授

研究部	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
	〃	永 積 洋 子	城西大学教授
	〃	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所教授
	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所助教授
	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
	〃	八尾師 誠	東京外国語大学助教授
	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
	〃	林 佳世子	東京外国語大学専任講師
	〃	原 實	東京大学名誉教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
	〃	星 實千代	東京外国語大学アジア・アフリ カ言語文化研究所研究員
	〃	本 田 實 信	京都大学名誉教授
	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授
	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授
	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
	〃	宮 崎 修 多	成城大学専任講師
	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫 司書
	〃	護 雅 夫	東京大学名誉教授
	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
	〃	山 口 謡 司	イギリス・ケンブリッジ大学 助手

研究部	〃	山 崎 元 一	國学院大学教授
	〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授
	〃	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
	〃	渡 辺 紘 良	獨協医科大学教授
	〃	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ研究 所研究員
	〃	和 田 博 徳	創価大学教授
	研究員(専任)	福 田 洋 一	
	〃	本 庄 比佐子	
	〃	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯波 義信
	東洋文庫長	吉久 明宏※
	文庫長補佐	小山 勲※
	主 査	竹之内 信子※、広瀬 洋子※
	副 主 査	池田 直人※、志茂 碩敏※
	事 務 主 任	小林 輝男※、西蘭 一男※
	司 書	桜井 徹、中善寺 慎、辺見 由起子
総務部	部 長	東 陽太郎
	課 長	光田 憲雄
	会 計 係 長	金子 祐子
	参 事	中沢 元幸、橘 伸子、小松 眞理
		吉田 男佐武、広木 節巳、長谷川 茂広

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)



## 5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	石川重雄、石川美恵、伊藤千賀子、王 詩倫、王 瑞来、木下宗篤 黒岩 高、現銀谷史明、高野大輔、清水和裕、柴谷果織、柴山 滋 杉下由紀子、鈴木直子、高橋 哲、直井弘洋、中林 豊、中町信孝 野村正次郎、原 朝子、福田立子、福田裕美子、帆刈浩之、前田裕子 松浦文子、宮島洋子、村上千おり、安田震一、山口 洋、渡辺修子
図書部	安宅真弓、岩城志津香、岩見 隆、岡田泰介、金沢悦男、清水一枝 関 喜房、高木雅弘、高田まゆみ、高田ひさ子、高橋智子、竹越 孝 沈 潔、外川和雅、荷見守義、古田幸三、山村義照 ヤマンラール・水野美奈子
総務部	豊田典子

## V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概 要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究情報の交換、研究者の交流の促進、及び研究成果の普及を図る。

### 1. ユ ネ ス コ 協 力 活 動

【概 要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

#### 【事業内容】

#### (1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる同シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心に「中央アジア文明史編集協力委員会」を組織した。

専門委員：梅村 坦，久保一之，小松久男，中見立夫，羽田 正，濱田正美

堀 直，森川哲雄

委員会：6月18日 編集協力の方法について検討し、同シリーズ第5巻以降（16世紀—20世紀）の執筆者の人選を進めた。

#### (2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 1994-95 に「Asian Research Trends の編集・出版」事業及び「アジア重要文献覆刻叢書の編集・出版」事業をもって参加の申請を行なった。

### 2. 学 術 情 報 活 動—アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関及び研究者の間の交流・協力を促進する。

## 2-1. Asian Research Trends の編集・出版

【概 要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

### 【事業内容】

英文の年刊誌“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review”の編集・出版を行なった。本年度は No. 5 (1995) を刊行し、アジア諸国におけるアジア研究・自国研究、日本におけるアジア研究の動向を中心に掲載し、あわせて下記「国外研究情報の収集」(2-2-(2))において訪問した関係研究機関の調査報告、下記「海外専門家の招聘」(2-2-(3))による招聘研究者の報告等を掲載した。A5判変型 (1,500部)。

また、同誌 No. 3 の増刷 (500部) を行なった。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、佐藤次高、中里成章、濱下武志、山内弘一  
山崎元一

## 2-2. 国内外研究情報の収集

【概 要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学术交流のための基礎資料とする。

### 【事業内容】

#### (1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関、及び日本学会会議との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

#### (2) 国外研究情報の収集

##### (2)-A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象である東北アジア地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を行なった。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

中華人民共和国：

9月10日—9月25日

大井 剛 (センター調査外事室長)

橋本秀美（研究協力者、東京大学大学院生）

前嶋敦子（研究協力者、慶応義塾大学学生）

本調査は、東北アジア考古学研究会との協力のもとに、同会会長田村晃一青山学院大学教授を団長とする調査団に上記調査員が参加して行なわれ、吉林省及び黒龍江省の機関を訪問した。なお、調査旅費は私費である。

大韓民国：藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会 社会教育課 文化財係長）  
11月9日—11月14日

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、ソウル所在の機関を訪問した。なお、調査旅費は私費である。

大韓民国：大井 剛（前 出）  
2月5日—2月18日  
藤井和夫（前 出）

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、慶尚道及びソウル所在の機関を訪問した。

## (2)一B. 講演会の開催

来日中の外国人研究者を招いて講演会を開催し、諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図った。

7月6日（水）

講 師：王 承 礼 中国吉林省社会科学院教授、吉林省考古学会理事長

主 題：「渤海国と日本の交流史」（中国語）

講 師：李 亜 泉 吉林省調査研究学会会長

主 題：「中国東北抗日聯軍中の日本人戦士」（中国語）

会 場：新潟大学人文学部

7月7日（木）

講 師：王 承 礼（前 出）

主 題：「中国古代北方文化について」（中国語）

会 場：富山大学人文学部

9月9日（金）

講 師：L. A. サンチェス＝ゴメス マドリッド大学地理歴史学部講師

(Sánchez Gómez, Luis Ángel Departamento de Prehistoria,  
Facultad de Geografía e Historia, Universidad Complutense, Madrid, Spain)

主 題：「スペインにおける最近のフィリピン史研究 1989-1994」（英語）

会 場：東洋文庫講演室

(2)－C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度2-2-(2)-B及び2-2-(3)に記載の外国人研究者以外に、センターを訪れ、センターが情報等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記の通りである。

張 偉 雄	東京大学大学院客員研究員（比較文学比較文化）；中国
Anouar Abdel-Malek	Special Adviser for Asian Affairs, National Centre for Middle East Studies, Cairo, Egypt
Jamieson, John C.	香港中文大学客員教授，同大学語文研習所所長
Sompop Manarungsan	京都大学東南アジア研究センター客員教授；Faculty of Economics, Chulalongkorn Univ., Bangkok, Thailand
朱 延 平	東京大学文学部客員研究員（考古学）；中国社会科学院考古研究所，中国
李 相 均	東京大学大学院（考古学）；韓国
鄭 漢 德	釜山大学校人文大学教授，釜山，韓国
鄭 澄 元	釜山大学校人文大学教授
林 孝 澤	東義大学校人文科学大学教授，釜山，韓国
安 在 皓	東国大学校人文科学大学講師，慶州，慶尚北道，韓国
申 敬 澈	慶星大学校文科大学助教授，釜山，韓国
崔 秉 鉉	韓南大学校師範大学教授，大田，韓国
朴 淳 發	忠南大学校文科大学講師，大田，韓国
任 孝 宰	ソウル大学校人文大学教授，ソウル，韓国
韓 永 熙	国立中央博物館考古部長，ソウル，韓国
李 鍾 哲	国立民俗博物館研究員，ソウル，韓国
鄭 求 福	韓国精神文化研究院教授，城南，京畿道，韓国
河 宇 鳳	全北大学校人文大学教授，全州，全羅北道，韓国
朴 善 姫(Ms)	全北大学校生活科学大学教授
崔 恵 珠(Ms)	東京大学大学院（東洋史）；韓国
李 基 文	東京大学文学部客員教授；ソウル大学校人文大学国語国文学科教授，ソウル，韓国
Nguyen Duc Nghinh	Professor, Faculty of History, Hanoi National Pedagogic Univ. No. 1, Vietnam
Truong Hun Quynh	同上



Do Van Ninh	Professor, Institute of History, Hanoi, Vietnam
Nguen Dinh Dau	Historian, Social Science Council of Hochiminh City, Vietnam
Li Tana (Ms)	Lecturer, Dept. of History and Politics, Univ. of Wollongong, Australia
リコ・ホセ	Univ. of the Philippines, Manila
リディア・ホセ (Ms)	同上
イバーラ・マテオ	上智大学大学院 ; The Philippines
Llanes, Ferdinando C.	Univ. of the Philippines, Manila
De Hartingh, Bertrand	Membre scientifique, École française d'Extrême-Orient (EFEO), Hanoi, Vietnam
金 美 淑 (玄元) (Ms)	伽山仏教文化研究院企画研究室長, ソウル, 韓国
金 宰 晟 (正圓)	東京大学大学院 (印度哲学) ; 韓国
徐 有 威	中国紡績大学社会科学系, 上海, 中国
De Groot, Ger P.	在日本オランダ大使館文化部客員研究員 ; International Institute for Asian Studies, Leiden, The Netherlands
袁 清	Professor, Dept. of History, Wright State Univ., Dayton, Ohio, USA
Beillevaire, Patrick	Chargé de Recherche, Centre de Recherches sur le Japon Contemporain, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Paris, France
Macé, François	国際日本文化研究センター客員教授 ; Professeur, Département Corée-Japon, Institut National des Langues et Civilisations Orientales (INALCO), Paris, France
Ansart, Olivier	日仏会館フランス学長 (Directeur Français, Maison Franco-Japonaise)
Mahasin El-Safi (Ms)	Director, Institute of African and Asian Studies, Univ. of Khartoum, Sudan
趙 東 一	東京大学文学部客員教授 ; ソウル大学校人文大学国語国文学科教授, ソウル, 韓国
Bastid-Bruguère, Marianne (Ms)	京都大学客員教授 ; Directeur de Recherche, CNRS, Paris, France

Mohsin, K. M.	Professor, Dept. of History, Univ. of Dhaka, Bangladesh
Stape, John	日本女子大学教授（英文学）
Gauthier, Raymond	Consultant of Vietnam Sustainable Economic Development Program, International Development Research Center, Ottawa, Canada
Narayanan, M. G. S.	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所客員教授；India
黄 福 慶	中央研究院近代史研究所研究員，台北，台湾
具 良 根	東京大学文学部客員研究員；誠信女子大学校人文大学教授，ソウル，韓国
Subbarayalu, Y.	東京大学文学部教授；Professor, Dept. of Epigraphy, Tamil Univ., Thajavur, India

## (2)一D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年5月新設されたフランス国立極東学院東京支部との協力関係を確立するため，相互の交流を推進した。東京支部長は，同学院客員研究員（フランス科学研究庁研究員）ジャン＝ピエール・ベルトン氏である。

Berthon, Jean-Pierre Chercheur associé, Section de Tôkyô, École française d'Extrême-Orient (EFEO)

Chargé de Resherche, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Paris, France

## (3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

王 承 礼 中国吉林省社会科学院教授

李 亜 泉 吉林省調査研究学会会長

平成6年7月1日ー7月15日 本事業において，上記両名は当時滞在中の香港より来日し，同行来日したジェイミースン（John C. Jamieson）香港中文大学客員教授とともに，東北・中部地方の日本海岸の渤海国関係遺跡等を調査し，各地の関係機関への訪問，研究者との交流，中国文化に関する講演を行なった。なお，本事業の実施に際し，有限会社多摩アセット（東京都町田市）の援助を受け，また同社より財団法人東洋文庫を経て寄附金を受領した。

## 2-3. 文献目録の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」（2-2）において収集した学術情報を bibliography として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

### 【事業内容】

#### (1) 「漢籍在日総合目録」の編集

日本における漢籍蒐集の現状の調査を進めるため、国内所在の文庫・図書館の調査を継続した。また、5月27日に専門家による会議を開催し、戸川芳郎東京学芸大学教授を中心に日本・中国・韓国・ベトナム等の諸国間の専門家による共同研究を企画した。

#### (2) 「明治初期翻訳文献目録」の編集

同書の編集のための予備調査を進めた。本書は、日本の明治時代初期に翻訳・翻案された外国文献について調査し、その原典と翻訳出版とを明らかにした目録である。編集にあたり当センターが過去に実施した調査の資料を活用する。

#### (3) 「日本における中央アジア関係研究文献目録」続篇の企画

同目録（1879年—1987年分収載、1988年刊行）に続く同目録続篇（1987年以降分収載）の編集を企画し、予備調査を行なった。

#### (4) 出版物の増刷

「日本における中央アジア関係研究文献目録 1879年-1987年 3月」本篇、「日本における中東・イスラーム研究文献目録 1868年-1988年」本篇を増刷した（各300部）。

## 2-4. Directory の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」（2-2）において収集した学術情報を directory として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

### 【事業内容】

#### (1) 国内研究者名簿の作成

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成、及び個人アンケート調査を行ない、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。情報はすべてコンピュータ入力し、データベース化している。データに基づき「日本における印度学仏教学研究人名簿 1994」を出版した（1,000部）。

“Directory of Buddhist and Indic Studies in Japan, 1994”

#### (2) 海外研究機関一覧の編集

韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、インドに所在するアジア関係研究機関

のリストの作成及び資料収集を行なった。

(3) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集

国内研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

### 3. 重要文献の保存・普及活動—アジア重要文化財(文献)の保存・普及—

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

#### 3-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

専門委員：佐藤次高，武田幸男，立川武蔵，御牧克己，湯山 明

#### 【事業内容】

##### (1) 「デーヴィーマーハートミヤ絵画集」の編集・出版

“Devīmāhātmya Paintings Preserved at the National Archives, Kathmandu”  
Introduction by Masahide Mori and Yoshiko Mori.

〈Bibliotheca Codicum Asiaticorum 9〉1995.

「アジア重要文献覆刻叢書」第9巻として、同書の編集・出版を行なった。本書は、ヒンドゥー教の女神信仰に関する文献「デーヴィーマーハートミヤ」(女神の偉大さ)中の物語を描いた彩色画集の複製で、ネパール国立古文書館所蔵の絵画125点のカラー図版とその英文解説とから成る。編者は、森雅秀高野山大学密教文化研究所講師、及び森喜子氏である。A4判 (1,000部)。

##### (2) 「十地経」の編集

同書の編集を行なった。本書は、初期大乘仏教経典「十地経」(華嚴経十地品)のネパール国立古文書館所蔵写本2種を、英文解説を付して複製する。編者は、松田和信佛教大学総合研究所助教授である。



### 3-2. アジア史料の保存・普及

【概 要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存するとともに、広く普及を図る。

#### 【事業内容】

##### (1) 「アジア史料叢刊」の編集・出版

同シリーズの一点として「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集を行なった。本書は、漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。

##### (2) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

## 4. 研究普及活動

### 4-1. 研究成果の英文出版

【概 要】 アジア諸地域の文化・社会に関する研究の成果を英文で出版し、関係の研究者に周知させる。

#### 【事業内容】

##### (1) 「東南アジア史紀年総覧」の編集

同書の編集を行なった。本書は、タイに伝存する刻文・年代記等の錯雑した紀年史料を集成し歴学的検討を加えたイード氏 (J. C. Eade) (オーストラリア) の研究書である。

##### (2) 「中部タイ稲作農村の変容」の出版

“Changing Features of a Rice-Growing Village in Central Thailand: A Fixed-Point Study from 1967 to 1993” by Takashi Tomosugi.

同書の出版を行なった。著者は、友杉孝宮崎公立大学教授である。本書は、著者により、1967年から1993年にかけて実施された中部タイー農村におけるフィールドワークの研究成果である。なお、本書は著者に対する宮崎学術振興財団の助成金により刊行された。菊判 (1,200部)。

### 4-2. 語学講習会

【概 要】 アジア諸言語の講習会を、初学者を対象として短期集中方式により実施



し、学習の機会に乏しい言語の教育を行なうとともに、語学教授法の発達に寄与する。

【事業内容】

(1) 第34回語学講習会「ベトナム語講習会」の開催

名古屋大学大学院国際開発研究科及び同大学文学部、言語文化部の要請に応え、この三者との共催により下記の通り実施した。名古屋大学大学院の履修単位に認定されるとともに、大学の社会人教育の一環として大学と地域との交流にも貢献した。

期 間：7月20日(水)－8月12日(金) 9時30分－15時30分 (土・日曜日を除く)

共 催：名古屋大学大学院国際開発研究科

名古屋大学文学部

名古屋大学言語文化部

会 場：名古屋大学法学部会議室、文学部講義室

講 師：富田健次 大阪外国語大学教授

グエン・ビック・ハー 大阪外国語大学客員教授

修了者：15名

備 考：名古屋大学大学院国際開発研究科は、修了者のうち同大学院在籍者2名に対し履修単位を認定した。

4－3. 普及活動

【概 要】 国内外の研究者・研究機関の活動を促進する情報を提供し、またセンターを事務局とすることが効果的と認められる事業を企画・運営する。

【事業内容】

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈・交換等を行なった。「ニューズレター」(和文)の編集を行なった。

下記の学会・機関等において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館 (通年)

第51回東南アジア史学会研究大会 (東京大学〔本郷〕, 6月4日－5日)

第13回国際アジア歴史学会議 (IAHA, 東京, 上智大学, 9月5日－9日)

東京都江戸東京博物館 企画展「世界のなかの江戸・日本一(財)東洋文庫のコレクションを中心に」(10月8日－11月20日)

第6回東アジア古代史・考古学研究会交流会 (大阪市立アピオ大阪, 12月17日－18日)

## 5. 業 務 報 告

### A. 運営委員会・顧問会議

#### 運営委員会

前 期 開 催 日 平成 6 年 5 月 23 日（月曜日） 13 時 30 分—14 時 40 分  
場 所 東洋文庫 3 階会議室  
出 席 委 員 8 名 委任状 11 名  
報 告 1. 参与の委嘱について  
2. 運営委員の委嘱について  
議 題 1. 顧問の委嘱について  
2. 平成 5 年度事業報告及び決算報告について  
3. 平成 6 年度事業計画及び予算案について

後 期 開 催 日 平成 6 年 11 月 30 日（火曜日） 13 時 40 分—15 時  
場 所 東洋文庫 3 階会議室  
出 席 委 員 7 名 委任状 12 名  
報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. 運営委員の委嘱について  
3. その他  
センター運営の現状について  
議 題 1. 平成 6 年度事業中間報告及び収支状況報告について  
2. 平成 7 年度事業計画案及び収支予算案について

#### 顧 問 会 議

開 催 日 平成 6 年 5 月 23 日（月曜日） 13 時 30 分—14 時 40 分  
場 所 東洋文庫 3 階会議室  
出 席 顧 問 3 名 委任状 2 名  
報 告 1. 参与の委嘱について  
2. 運営委員の委嘱について  
議 題 1. 顧問の委嘱について  
2. 平成 5 年度事業報告及び決算報告について  
3. 平成 6 年度事業計画及び予算案について

## B. 役員異動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区分	現 職
6年 4. 1	運営委員	後藤 明	就任	東京大学東洋文化研究所長
〃	〃	戸川 芳郎	〃	東京学芸大学教育学部教授
〃	〃	山崎 元一	再任	國學院大学文学部教授
7. 1	顧 問	岡野 澄	〃	東京工業高等専門学校名誉教授
〃	〃	山本 達郎	〃	日本学士院会員
〃	運営委員	河野 靖	〃	上智大学アジア文化研究所客員研究員
〃	参 与	織田 武雄	〃	京都大学名誉教授
〃	〃	中村 元	〃	日本学士院会員
〃	〃	長尾 雅人	〃	日本学士院会員
〃	〃	服部 四郎	〃	日本学士院会員
7.19	運営委員	片倉 邦雄	退任	国際交流基金前専務理事
7.20	〃	太田 博	就任	国際交流基金専務理事
7.24	顧 問	佐藤 禎一	退任	文部省学術国際局長
〃	運営委員	雨宮 忠	〃	文部省大臣官房審議官
7.25	顧 問	岡村 豊	就任	文部省学術国際局長
〃	運営委員	長谷川正明	〃	文部省大臣官房審議官
9. 1	〃	藤井 和夫	〃	実践女子大学講師
9.13	〃	宮本 吉範	退任	文部省大臣官房審議官
9.14	〃	望月 敏夫	就任	文部省大臣官房審議官
7年 1.29	参 与	服部 四郎	逝去	
3.31	運営委員	小野 正雄	退任	東京大学史料編さん所長
〃	〃	上岡 弘二	〃	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長

### C. 職 員 異 動

年 月 日	役 職 名	氏 名	区分	備 考
7年 1. 1	研究員	福田 洋一	移籍	財団法人東洋文庫研究部に転出

### D. 会 計 報 告

#### 平成 6 年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成 7 年 3 月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額 (千円)	科 目	金額 (千円)
事 業 費	21,810	国 庫 補 助 金	79,600
ユネスコ協力活動費	287	財 産 収 入	3
学術情報活動費	13,094	雑 収 入	3,327
重要文献の保存・普及活動費	4,570		
研究普及活動費	3,859		
経 常 費	61,120		
人 件 費	60,258		
事 務 費	862		
計	82,930	計	82,930

## 6. 役 職 員 名 簿

平成7年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eは ex officio (官職指定)。

### A. 役 員

役 職 名	氏 名		現 職
所 長	石 井 米 雄		上智大学アジア文化研究所教授, 京都大学名誉教授, 財団法人東洋文庫理事
顧 問	浅 尾 新一郎	E	国際交流基金理事長
	岡 野 澄		東京工業高等専門学校名誉教授, 財団法人東洋文庫評議員
	岡 村 豊	E	文部省学術国際局長
	西 島 安 則	E	日本ユネスコ国内委員会会長
	前 田 充 明		財団法人国際学友会理事, 城西大学名誉教授, 財団法人東洋文庫評議員
参 与	山 本 達 郎		日本学士院会員, 東京大学名誉教授, 財団法人東洋文庫理事
	織 田 武 雄		京都大学名誉教授
	田 村 實 造		京都大学名誉教授
	中 村 元		日本学士院会員, 東京大学名誉教授, 東方学院長
	長 尾 雅 人		日本学士院会員, 京都大学名誉教授
	丸 山 眞 男		日本学士院会員, 東京大学名誉教授



役 職 名	氏 名		現 職
運営委員	池 端 雪 浦		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	小 野 正 雄	E	東京大学史料編さん所長
	太 田 博	E	国際交流基金専務理事
	上 岡 弘 二	E	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
	辛 島 昇		大正大学文学部教授，東京大学名誉教授
	河 野 靖		上智大学アジア文化研究所客員研究員
	後 藤 明	E	東京大学東洋文化研究所長
	阪 上 孝	E	京都大学人文科学研究所長
	佐々木 高明		国立民族学博物館教授・館長
	佐 藤 次 高		東京大学文学部教授，財団法人東洋文庫理事
	斯 波 義 信		国際基督教大学教養学部教授，財団法人東洋文庫理事
	竺 沙 雅 章		大谷大学文学部教授，京都大学名誉教授
	坪 内 良 博	E	京都大学東南アジア研究センター所長
	戸 川 芳 郎		東京学芸大学教育学部教授，東京大学名誉教授
	中 根 千 枝		財団法人民族学振興会理事長，東京大学名誉教授，財団法人東洋文庫理事
	長谷川 正 明	E	文部省大臣官房審議官
	藤 井 和 夫		実践女子大学講師
	三 角 哲 生	E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
	望 月 敏 夫	E	文部省大臣官房審議官
	山 崎 元 一		國學院大学文学部教授
	山 田 勝 久	E	アジア経済研究所長

## B. 職 員

室 名	職 名	氏 名
調査外事室	室 長 研 究 員	大 井 剛 近 藤 敦 子
普 及 室	室 長 研 究 員 参 事	外 池 明 江 設 楽 靖 子 坂 本 葉 子
庶務会計室	室 長 参 事	飯 田 隆 子 小 林 和 弘
外 国 人 専 門 員		John Wisnom

## C. 臨時職員

平成6年4月1日から平成7年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

大瀧紀子，近藤信彰，篠崎陽子，柴谷果織，島田志津夫，嶋田英晴，島谷泰子  
清水敏江，高島まゆみ，竹野幸子，西田暢子，橋本秀美，前嶋敦子，松本恭枝  
村山哲也，森島 聡，渡部良子



財団法人 東洋文庫年報 平成6年度

---

平成7年8月30日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

北村甫

印刷者 (株) デイグ

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

---



